

第28回京都市廃棄物減量等推進審議会 次 第

平成14年7月4日
平安会館・白河の間

1 委員紹介

2 議 題 等

- (1) 本市廃棄物処理の現状及び廃棄物に関する社会情勢の変化
- (2) 諮 問
「新京都市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画 ～ 京(みやこ)・めぐるプラン」の見直しについて
- (3) 基本計画見直しの方向性と審議会の体制案
- (4) その他

京都市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

(敬称略：五十音順)

琴西 植子	聖護院学区ごみ減量推進会議 会長
植田 智次	京都工業会 専務理事
上原 在	京都市環境局長
笑沢 正興	日本チェーンストア協会関西支部 参与
○郡鴫 孝	同志社大学経済学部 教授
小堀 穰	京都商工会議所 専務理事
佐々木 佳代	同志社女子大学生活科学部 教授
篠田 進	京都市小売商総連合会 専務理事
秋本 晋生	環境市民 代表理事
笑土 肇一	京都清掃業協同組合 専務理事
○篤月 紘	京都大学環境保全センター 教授
竿嶋 和子	京都市生活学校連絡会 会長
西川 富久子	京都市地域女性連合会 常任委員
西田 哲郎	京都百貨店協会 会長代理
	(株)ジェイアール西日本伊勢丹 取締役総務部長)
原 強	京都消費者団体連絡協議会 代表幹事
植村 久子	京都女子大学現代社会学部 教授
松本 朗光	京都商店連盟 常任理事
村尾 強	京都市職員労働組合連合会 執行委員長
山内 寛	京都市保健協議会連合会 会長

(◎：会長 ○：会長職務代理者)

1 本市廃棄物処理の現状及び廃棄物に関する社会情勢の変化

(1)ごみ量，ごみ質の推移等

ごみ量の推移

資料 1-1

持込ごみ排出量の推移

資料 1-2

ごみ種別物理組成の経年変化

資料 1-3-1~1-3-3

資源回収量,再資源化率

資料 1-4-1

缶・びん・ペットボトルの収集量と家庭ごみへの混入量

資料 1-4-2

社会情勢の変化とごみ量，ごみ質の推移

資料 1-5-1~1-5-3

業者ごみの業種別排出比率，ごみ質，再生利用率

資料 1-6-1~1-6-3

(2)ごみ処理原価

歳出予算の行政目的別歳出額とその推移

資料 1-7-1

ごみ処理コスト経年変化

資料 1-7-2

1トンあたりの各種ごみ処理原価

資料 1-7-3

スチール缶の処理コスト試算

資料 1-7-4

(3)現行基本計画の進捗状況

現行基本計画の進捗状況と分析

資料 1-8-1

現行基本計画のごみ処理量予測と実際のごみ処理量の推移

資料 1-8-2

(4)循環型社会構築に向けた国の動き

循環型社会の形成の推進のための法体系

資料 1-9-1

国の法体系の概要と現行基本計画の乖離

資料 1-9-2

2 基本計画見直しの方向性と審議会の体制案

(1)基本計画見直しのポイント

○上流対策の強化

上流対策（発生抑制，再利用）の強化と実効性の確保

モニタリングシステムの構築

○市民・事業者・行政の役割の見直し

市民・事業者の自主的取組の強化（排出者責任，拡大生産者責任）

行政の「循環コーディネータ」としての役割強化（コミュニティ場創設など）

○情報インセンティブの発信と経済的インセンティブの検討

○物質循環を視野においた廃棄物処理システムの構築

循環型社会と廃棄物処理システムのあり方

環境負荷が抑制された廃棄物処理システムの検討

戦略的環境アセスメント（SEA）の試行的導入

○ごみ減量の進捗管理システム（PDCA）の構築

○不適正処理の防止（有害物質対策，不法投棄等）

(2)見直しの方向性

C O P 3 開催都市，建都 1 2 0 0 年の伝統に培われた高度な技能や一品を大切に，良い物を末長く使うといった京都らしい特徴をふまえ，実効性のある循環型社会にふさわしいごみ処理基本計画の策定を目指す。

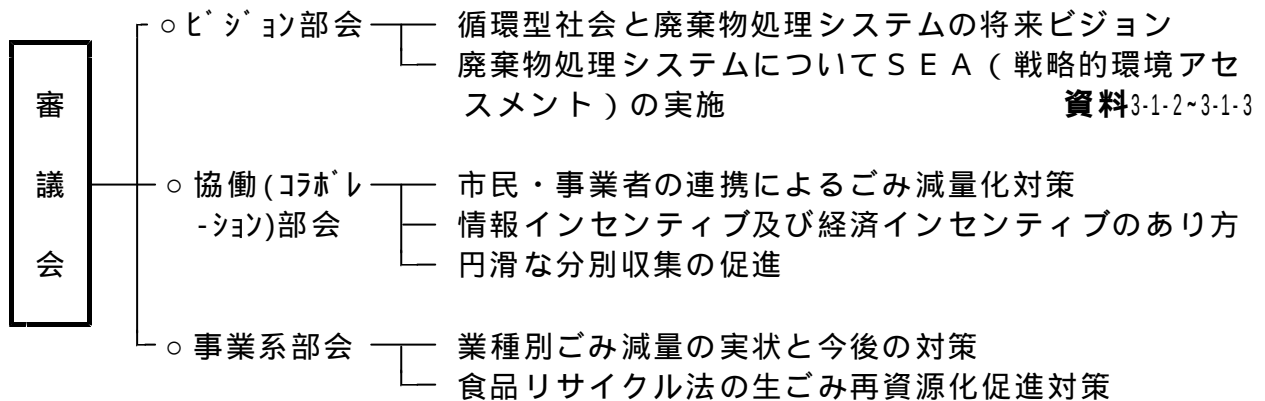
資料 2

(3) 審議会の体制案等

審議会の体制案

資料 3-1-1

審議会では，下部組織として3部会を設け，主として下記のテーマについて検討する。



部会委員選任における公募制の導入について

資料3-2-1~3-2-2

- 基本計画見直しにあたって広く市民の意見を取り入れるため，京都市民から公募委員を募る。
- 審議会委員については，次回改選時期は15年6月であり，この時点で市民公募も考える。
- 今年度は，審議会の下部組織として3部会を設けることから，今年度はその内の2部会(協働部会，事業系部会)の委員各2名ずつを市民公募する。

審議会資料の公開

資料 3-3

今年度から審議会の資料は，循環型社会推進課のホームページで公開することとする。

(4) 今後のスケジュール

平成15年3月には，それまでの検討結果を中間報告として取りまとめるとともに，同年9月には審議会から答申をいただき，10月を目途に新基本計画を策定する予定。

資料 3-4

平成14年7月4日

第28回京都市廃棄物減量等推進審議会配布資料1

「本市廃棄物処理の現状及び廃棄物に関する社会情勢の変化」

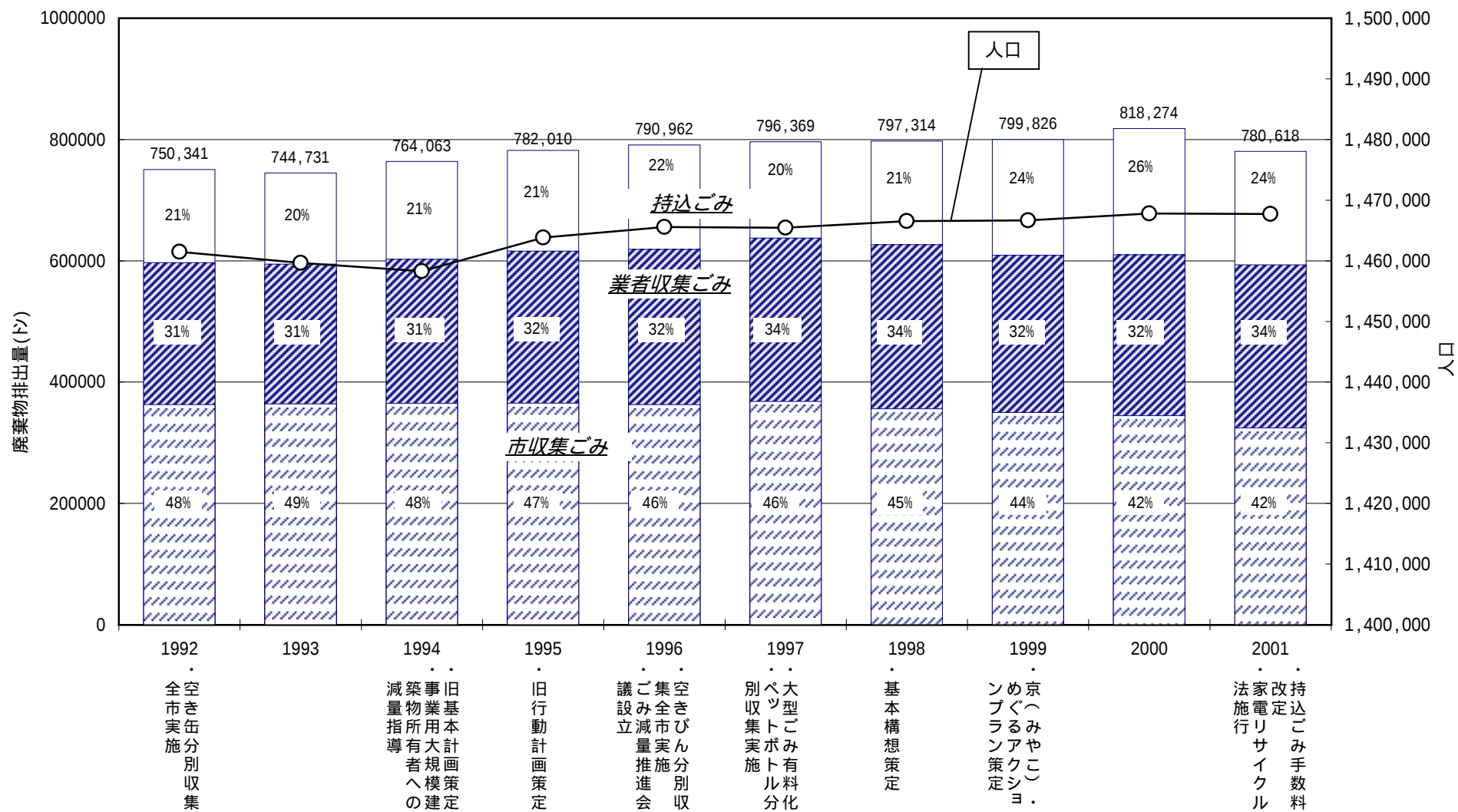


図1 京都市のごみ量の推移

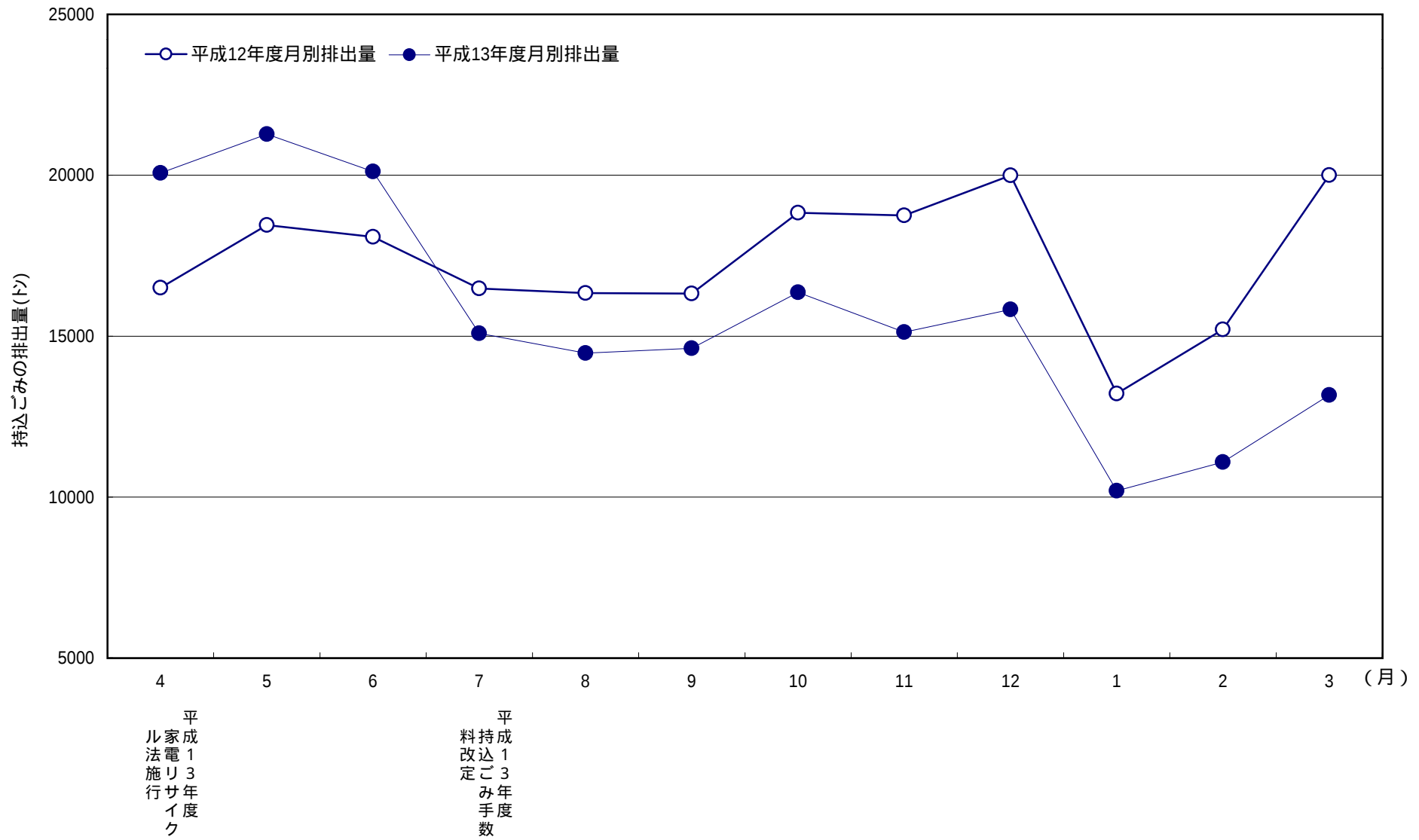
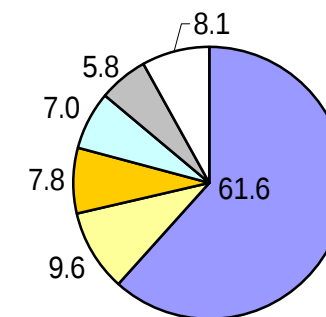


図2 持込ごみ排出量の推移

(参考1) 家庭ごみの使用用途別組成
(容積比%, 平成13年度)



(参考2) 資源ごみの組成
(容積比%, 平成13年度)

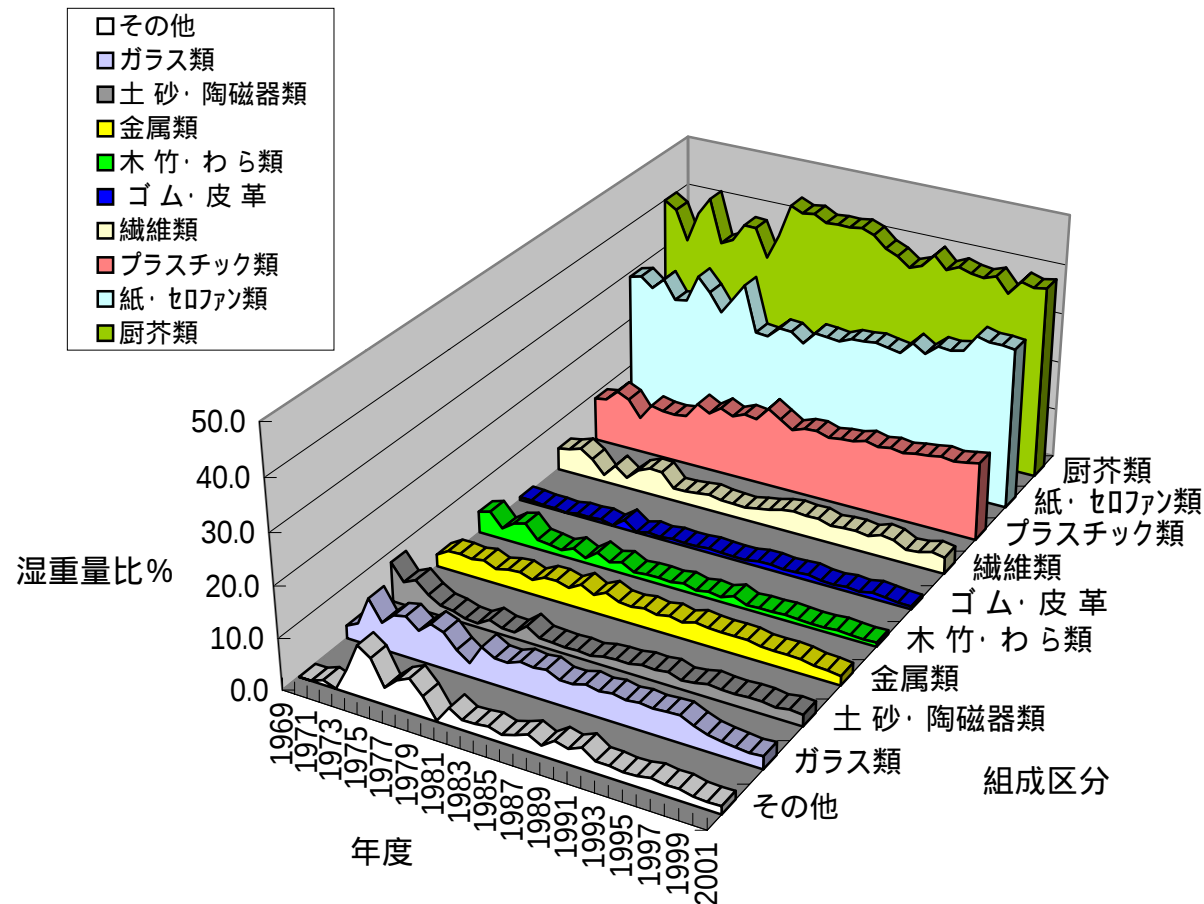
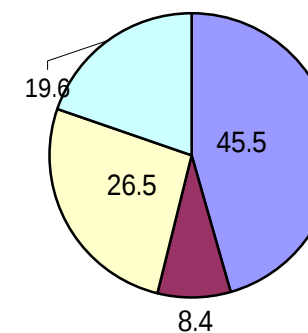
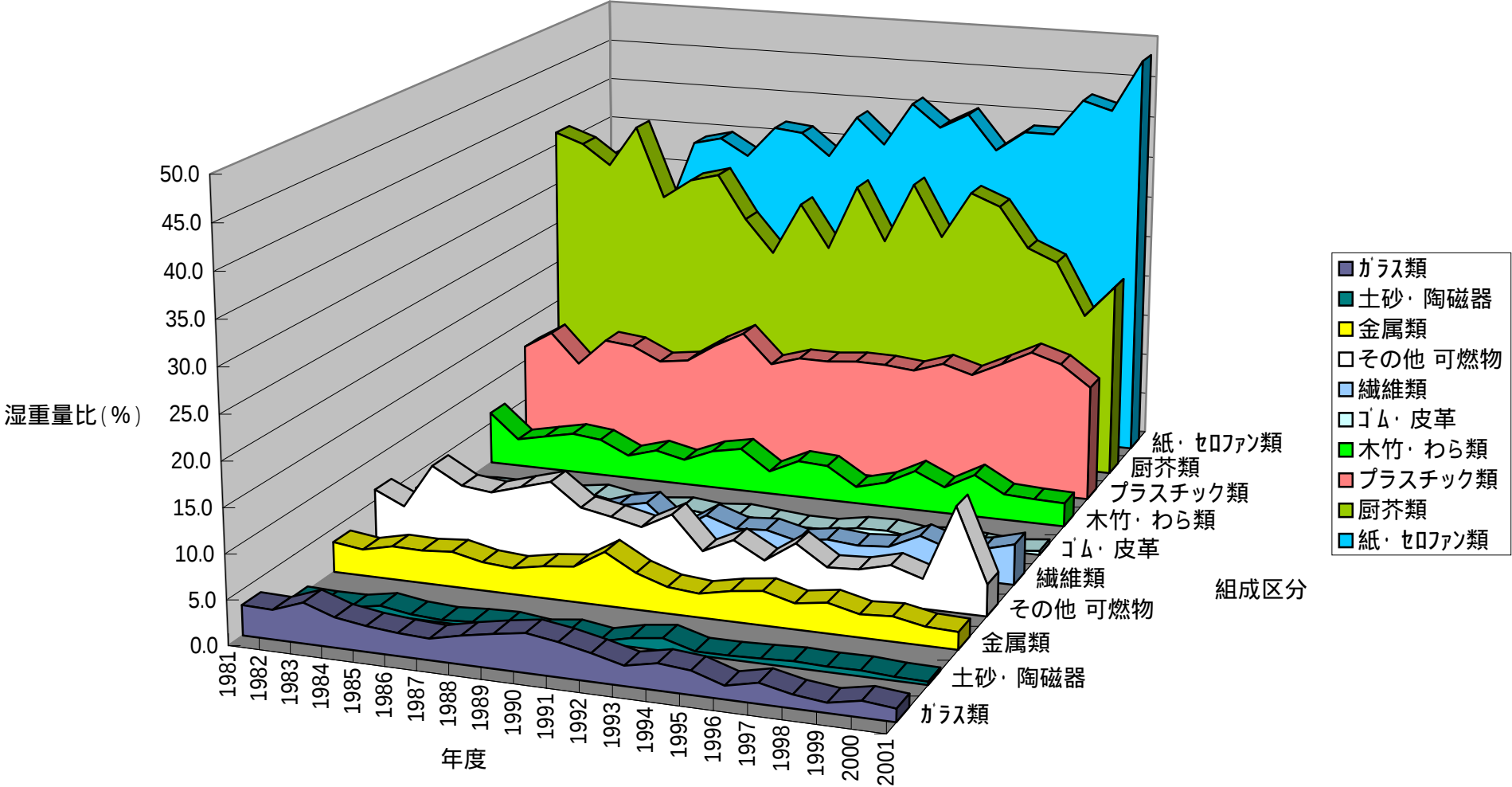
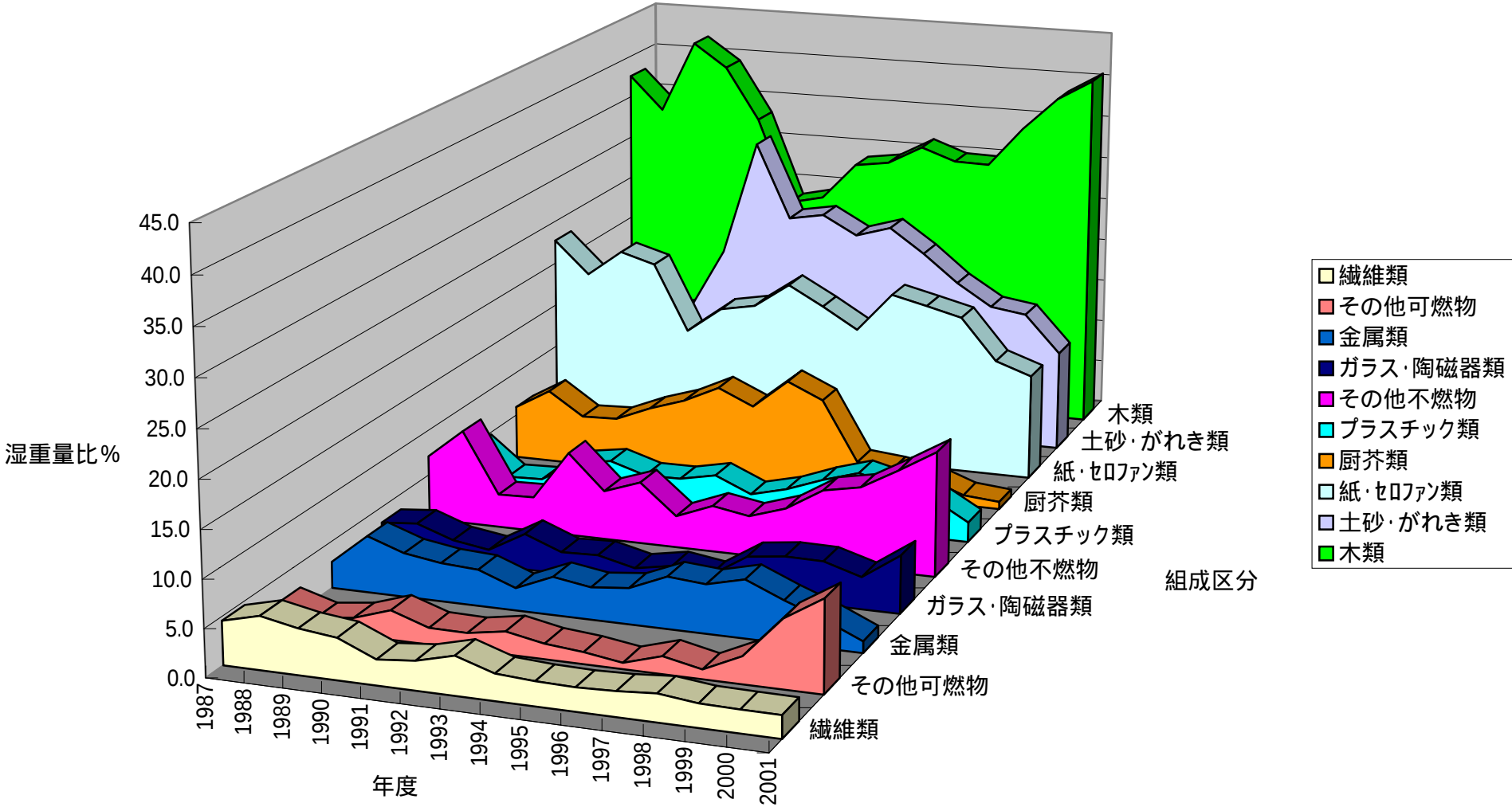


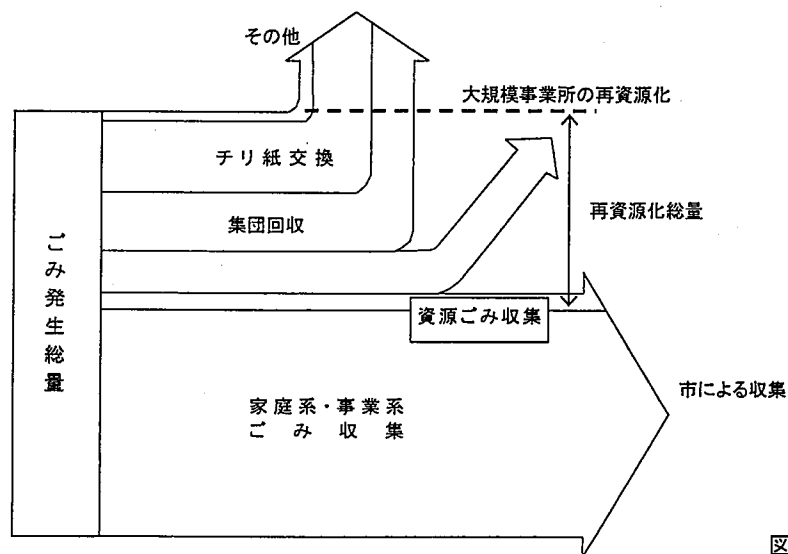
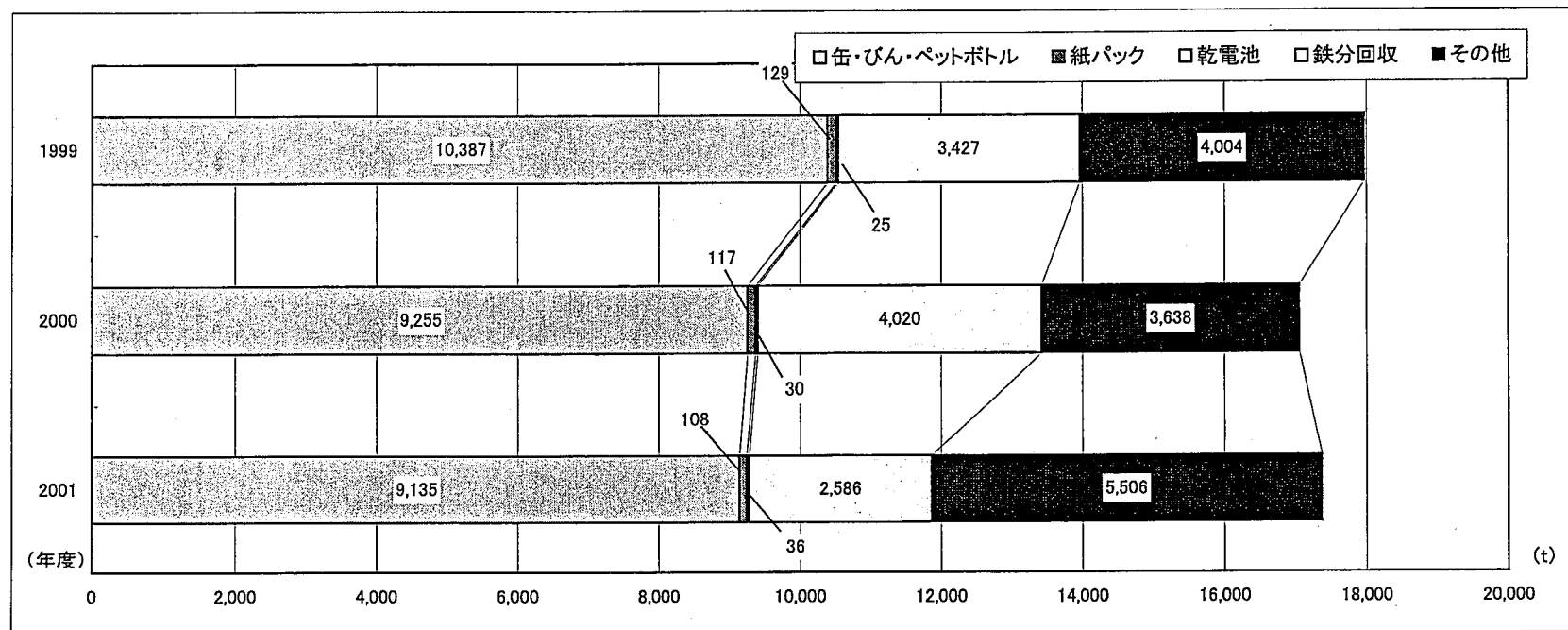
図 家庭ごみ物理的組成経年変化(湿重量比%)

業者収集ごみ物理的組成経年変化(湿重量比%)



持込ごみ物理的組成経年変化(湿重量比%)





	1999	2000	2001
総量	17,972	17,060	17,371
缶・びん・ペットボトル	10,387	9,255	9,135
紙パック	129	117	108
乾電池	25	30	36
鉄分回収	3,427	4,020	2,586
その他	4,004	3,638	5,506
再資源化率	2.2%	2.1%	2.2%

その他の再資源化要素			
総量	211,994	265,773	
民間における古紙回収	167,552	220,028	未集計
秘密処理リサイクル実績	548	655	503
学校給食紙パック回収	83	93	117
魚アラ(市内分のみ)	7,496	7,809	6,479
大規模事業所ごみ再資源化	36,315	37,188	未集計
その他要素を含めた再資源化率	21.1%	24.4%	

図／表 直近の再資源化量と再資源化率の推移

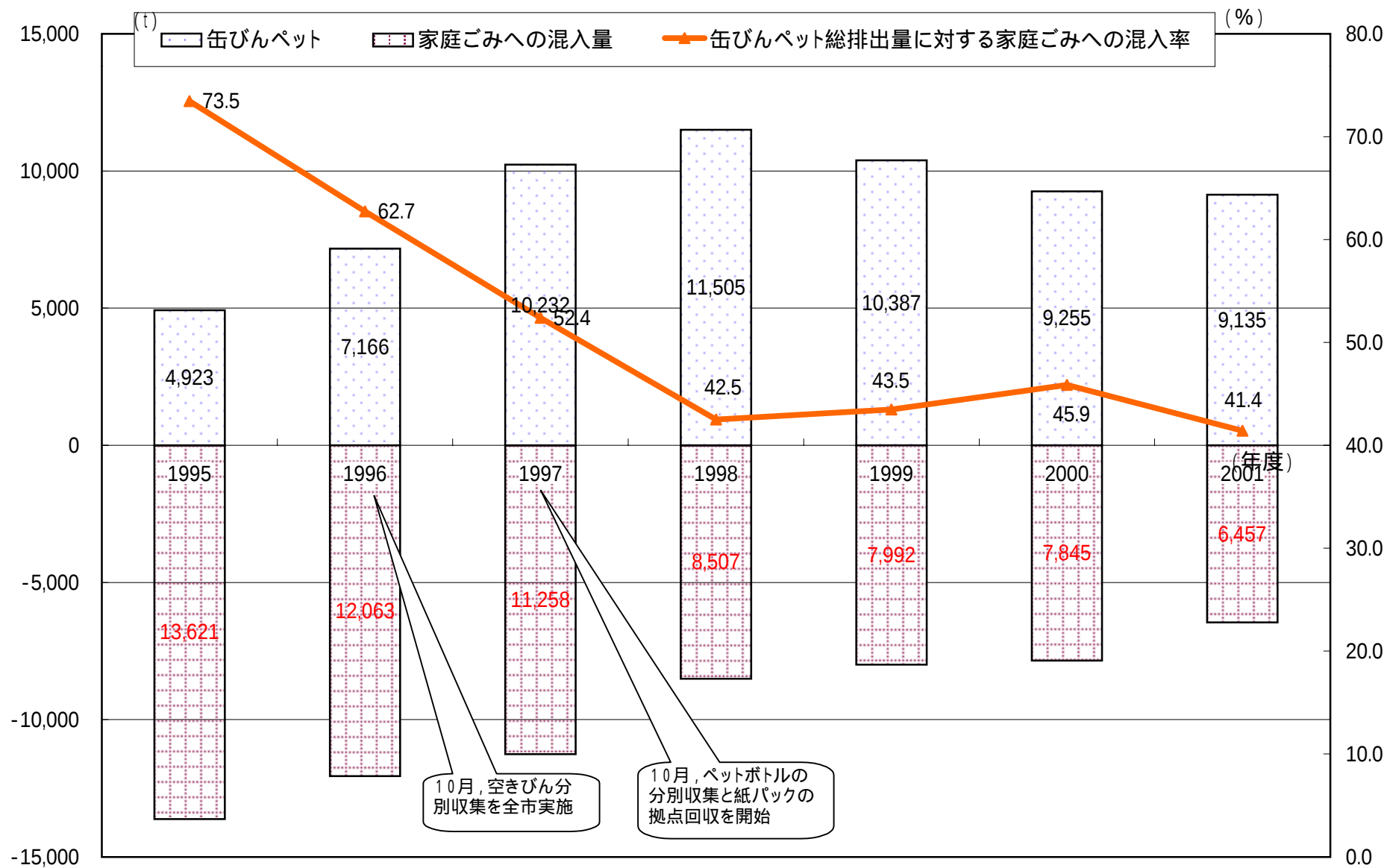
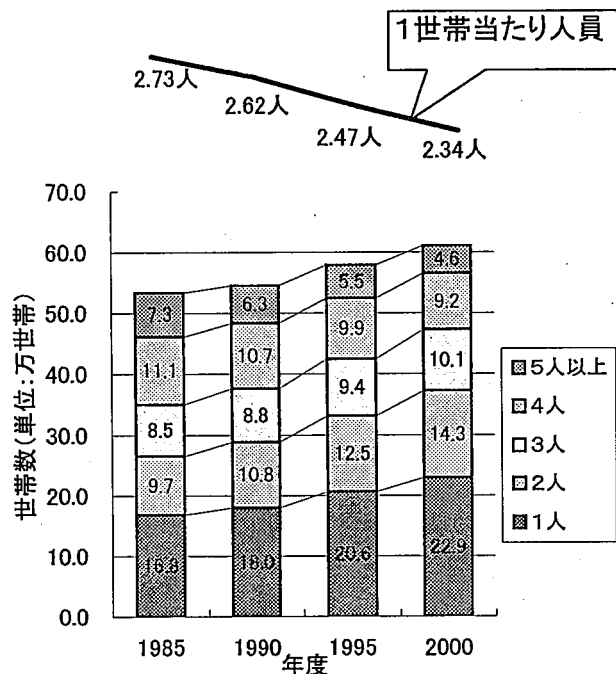


図 缶・びん・ペットボトルの収集量と家庭ごみへの混入量及び混入率の推移

ごみ量、ごみ質変化の背景(1)

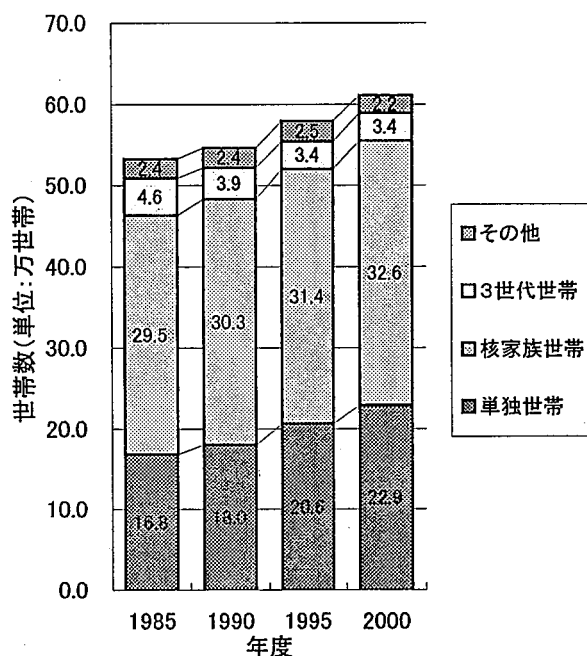
<増える単独世帯>

(1)世帯人員別世帯数



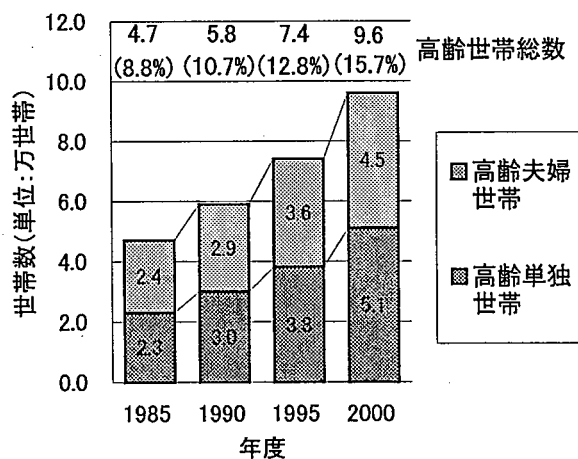
資料 : 国勢調査

(2)世帯形態別世帯数



資料 : 国勢調査

<増える高齢世帯>



注1 : ()内は一般世帯に占める割合(%)である。

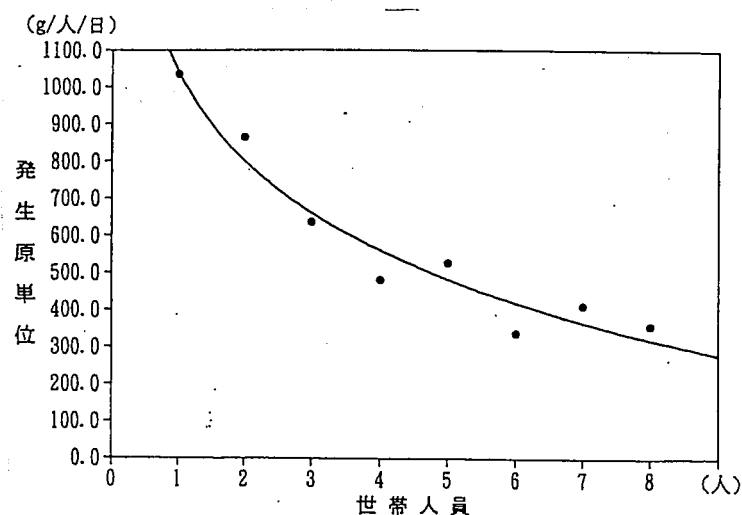
注2 : 「高齢単独世帯」とは65歳以上の者1人のみの一般世帯。

「高齢夫婦世帯」とは、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの一般世帯をいい、両者を合わせて「高齢世帯」という。

なお、老人ホーム入居者や病院等の長期入院患者は含まない。

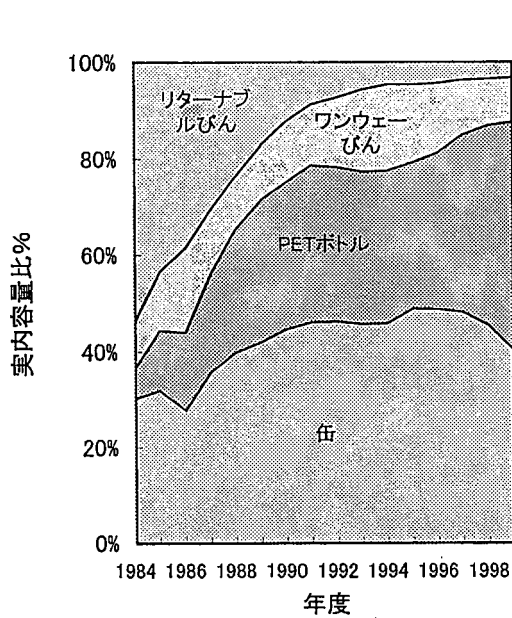
資料 : 国勢調査

<世帯人員と総ごみ発生量>

資料 : 一般廃棄物処理基本構想策定のための
家庭ごみ計量モニター・市民アンケート調査

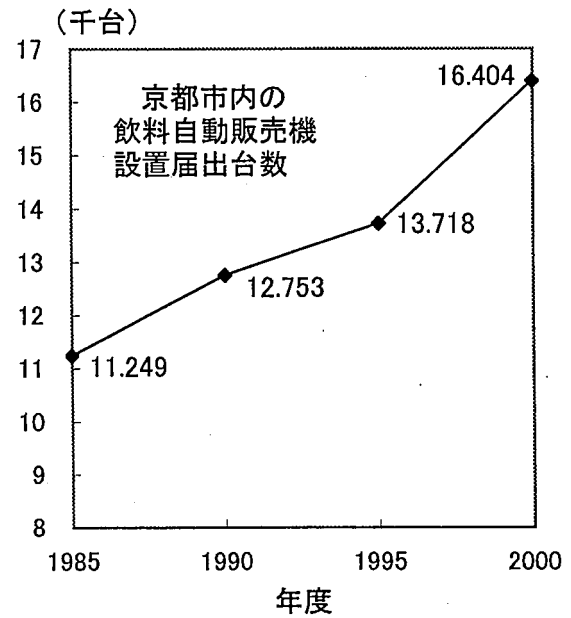
ごみ量, ごみ質変化の背景(2)

<飲料容器の生産数量の推移(実内容量比%)>



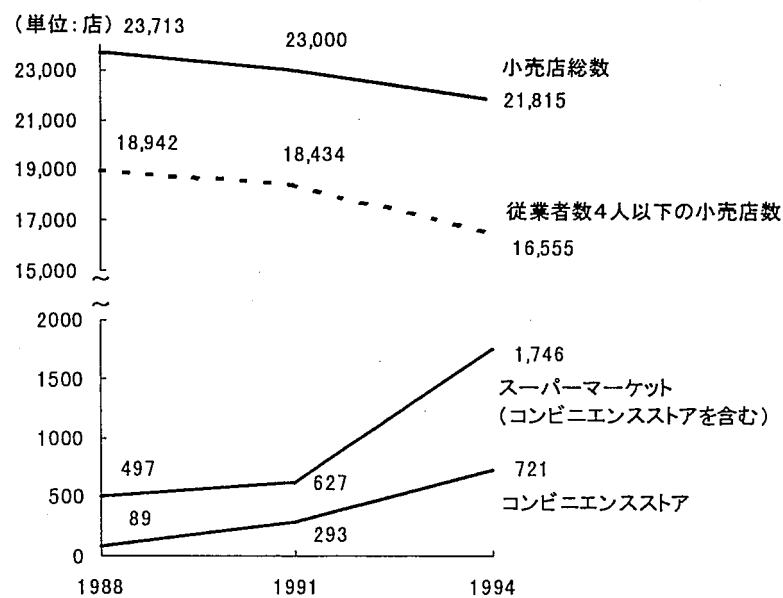
出典：財団法人日本炭酸飲料検査協会

<飲料自動販売機設置台数の推移>



出典：京都市環境局事業概要

<減る小売店舗, 増えるスーパーコンビニ>



資料：「京都府の商業」ただし、従業者数4人以下の小売店数は「京都市の商業」による。

社会情勢の変化とごみ量，ごみ質の推移

まち美化の手引き「京の始末を考える」より

ごみの特徴	頁	背景	現象	結 果
ごみ量が増大	3	単独世帯の増加や 核家族化 利便性追求	世帯単位で購入するごみの増加 使い捨て商品，容器包装ごみの増加	・一人一日当たりのごみ量は，昭和30年 ごろの1.3倍。 ・クリーンセンターや埋立処分場の建設
プラスチック容器 包装ごみが増大	5	利便性追求 衛生面，輸送面の 保護	流通段階の包装付加の過剰化	・ごみに占めるプラスチックの割合は，昭 和30年ごろの1.3倍。 ・クリーンセンターの処理設備の高度化
使い捨て商品が増 大	6	利便性追求 高齢化(一人暮らし)	紙おむつ，カイロなど 包装された加工食品の購入，紙おむつ の増加	紙おむつの排出量は，昭和55年ごろの 1.3倍。
食べ残し・手付か ず食品が増大	6	単独世帯の増加や 核家族化 高齢化(一人暮らし)	世帯単位で購入するごみの増加 包装された加工食品の購入	1世帯(4人家族の場合)が1年間に排出 する「生ごみ」は約370kgであり，その内 「食べ残し・手付かず食品」は約130k g。 購入品の実に1/3以上が食べずに廃棄さ れている。
かさばるごみの 増大	9	利便性追求	紙，プラスチックなど容器包装の増加	・収集車両の増加による環境負荷の増大， ・収集・運搬費用の増大
ごみの発熱量が増 大	9	利便性追求	プラスチックなど発熱量の高いごみの 増加	・クリーンセンターでの焼却炉の損傷 ・クリーンセンターでの焼却量の低下
有害な化学物質を 含むごみの増大	9	ライフスタイルの 多様化 利便性追求 素材の多機能化 医療・衛生目的の 使い捨て用品	鉛などを含む顔料や化粧品，漂白剤， 洗剤，消臭剤，塗料，農薬，肥料， 乾電池，鉛蓄電池，プラスチック安定剤， 防腐剤や難燃剤を含む資材，絶縁材料， 医療，注射針，注射用シリンジ，手袋 などがごみに排出	・有害物質の排ガス，排水への移行 ・クリーンセンターでの排ガス，排水処理 の設備投資，運転経費の増大 ・埋立処分場での排水処理設備の設備投 資，運転経費の増大 ・収集時，分別時の作業員のケガや感染等
危険なごみの増大	9	利便性追求	スプレー缶やカセットボンベがごみに 排出	破砕施設での爆発事故等

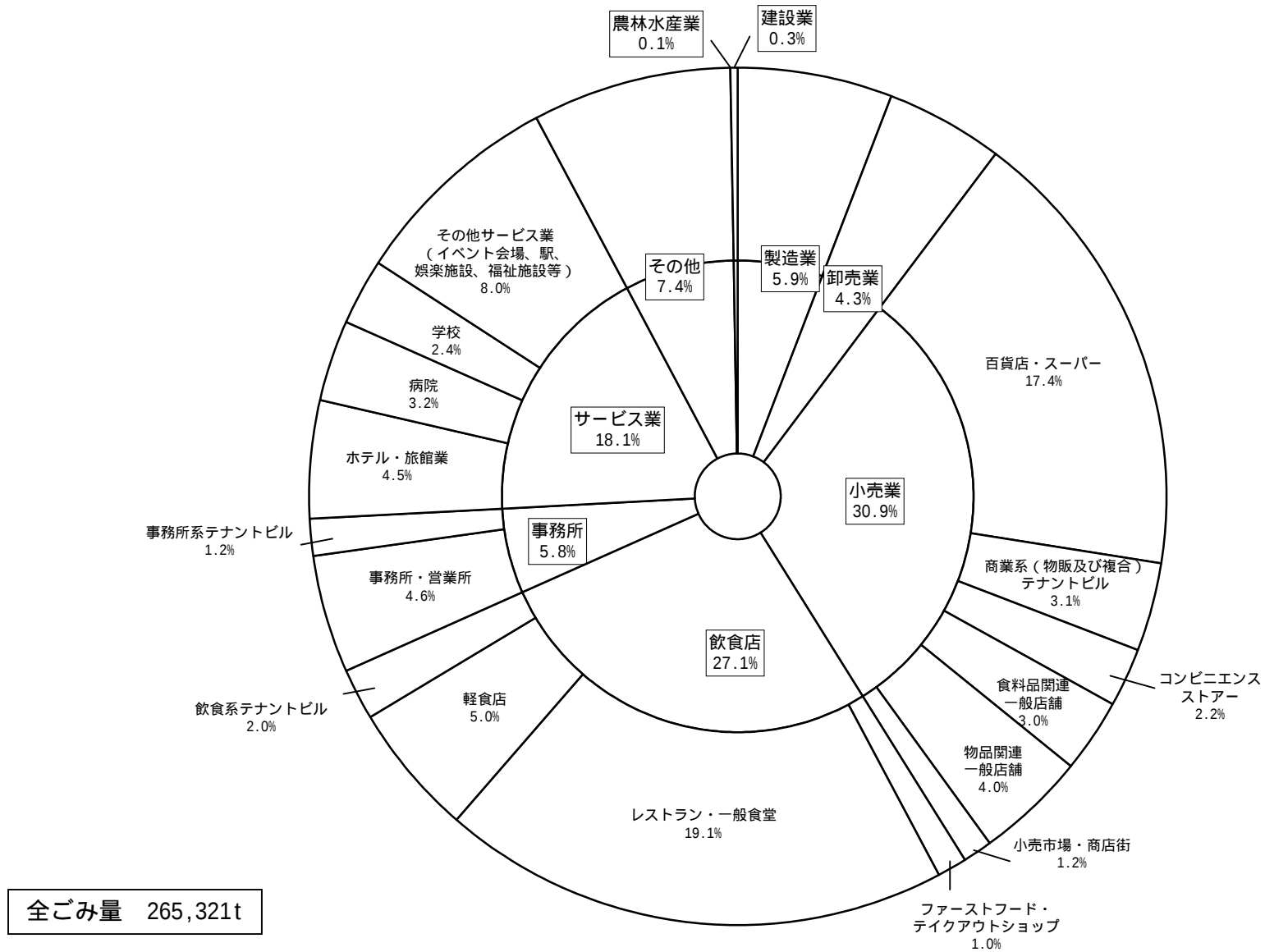


図 業者収集ごみの業種別排出比率 (平成12年度)

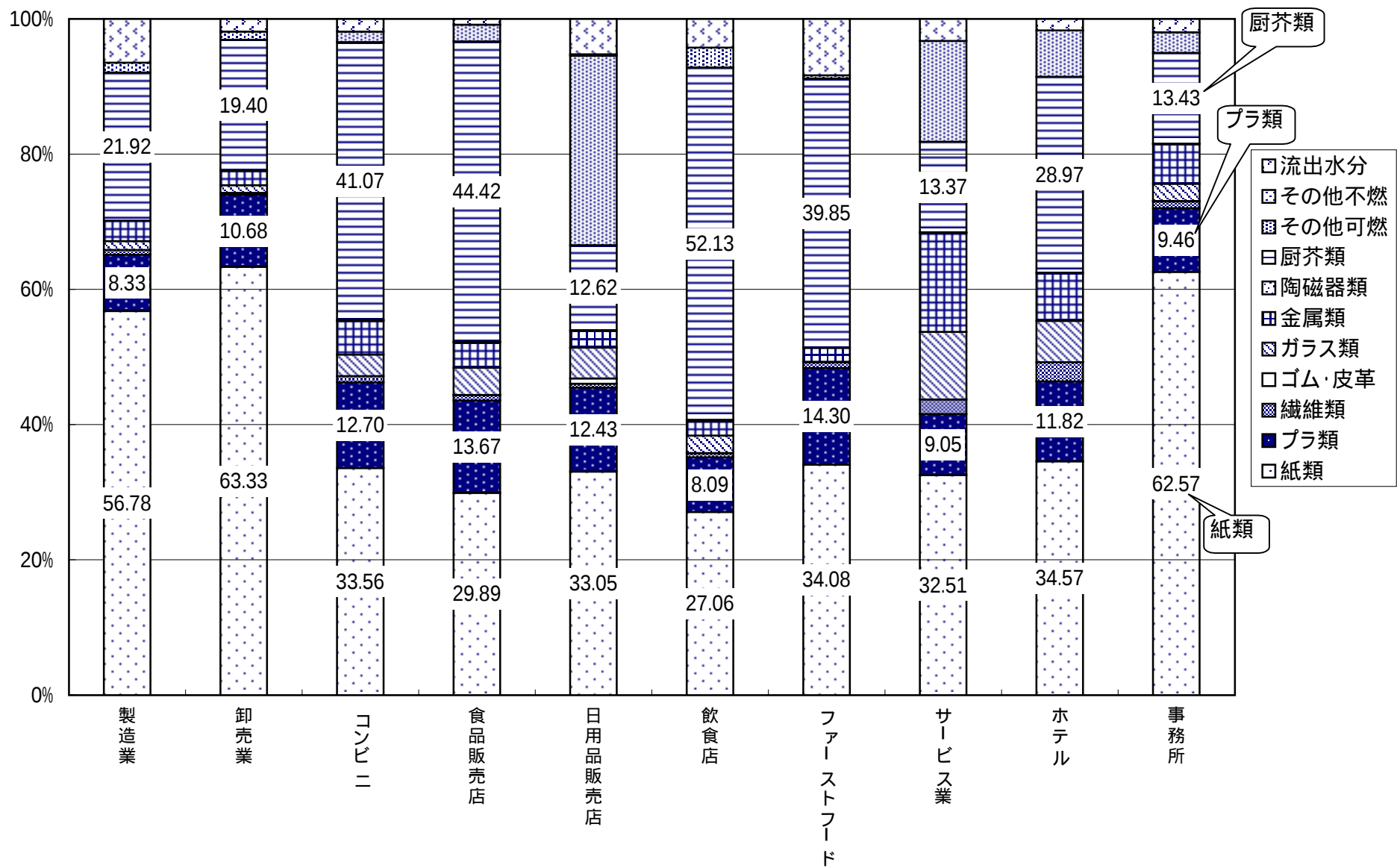


図 業者収集ごみの業種別ごみ質(平成9年度)

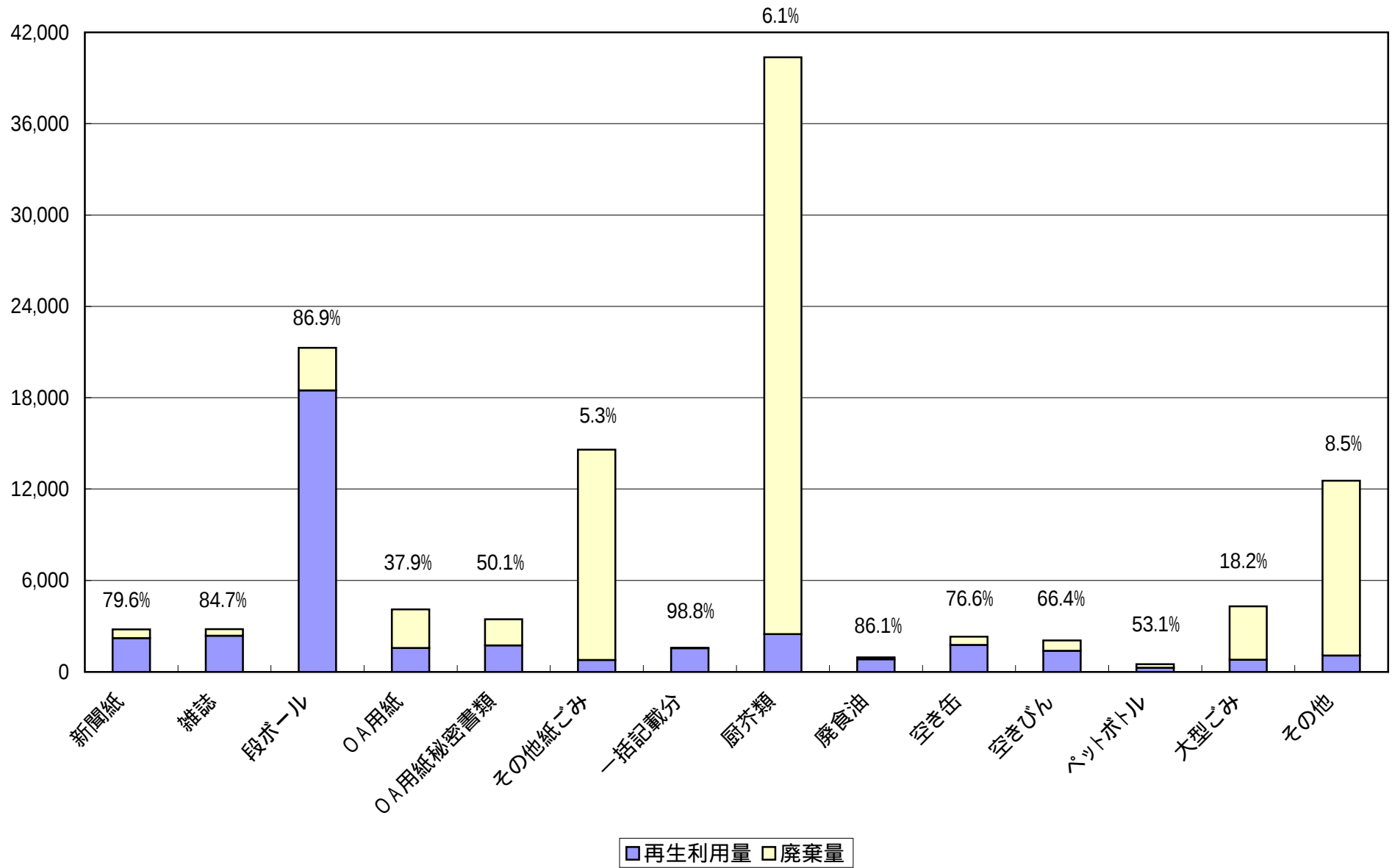


図 大規模事業所排出ごみのごみ種別処理量と再生利用率(平成12年度)

一般会計歳出予算の内訳（平成13年度）

【行政目的別内訳】 単位：百万円

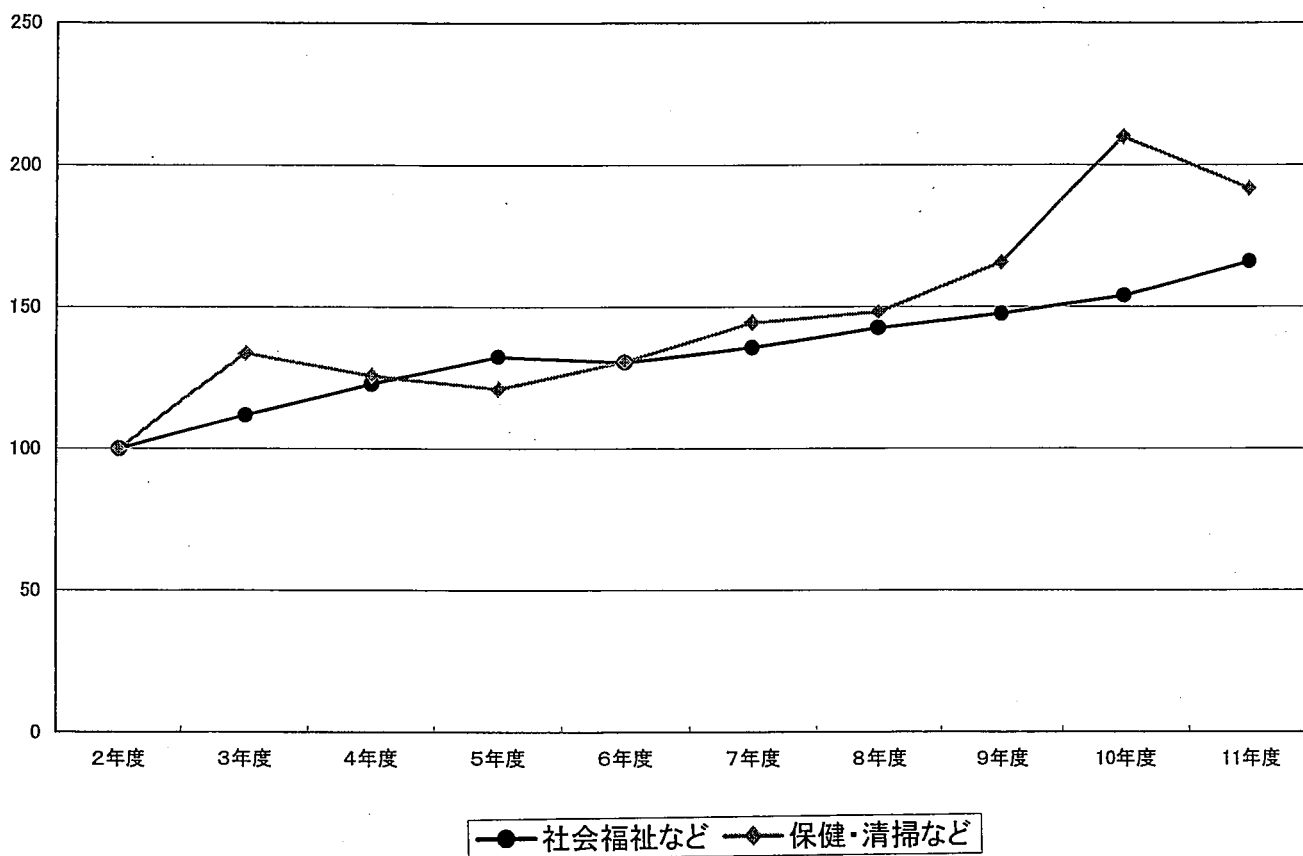
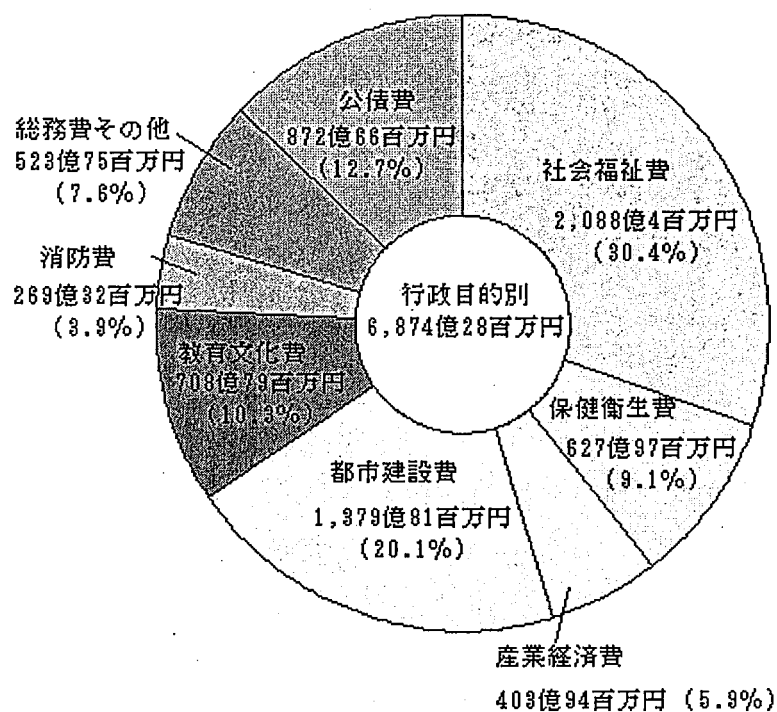
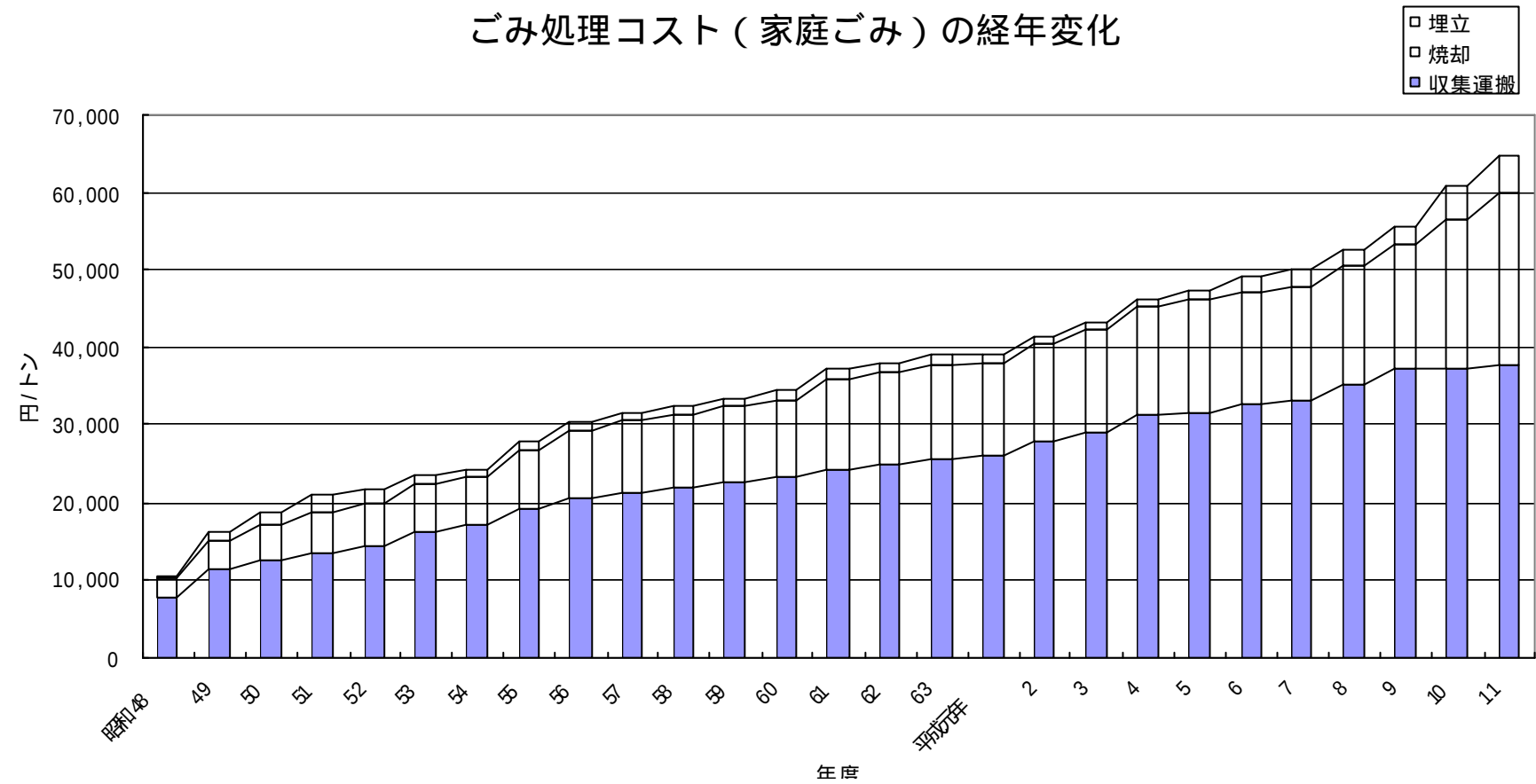


図 平成2年度を100としたときの、社会福祉及び保健・清掃分野への歳出額伸び率の推移

ごみ処理コスト（家庭ごみ）の経年変化



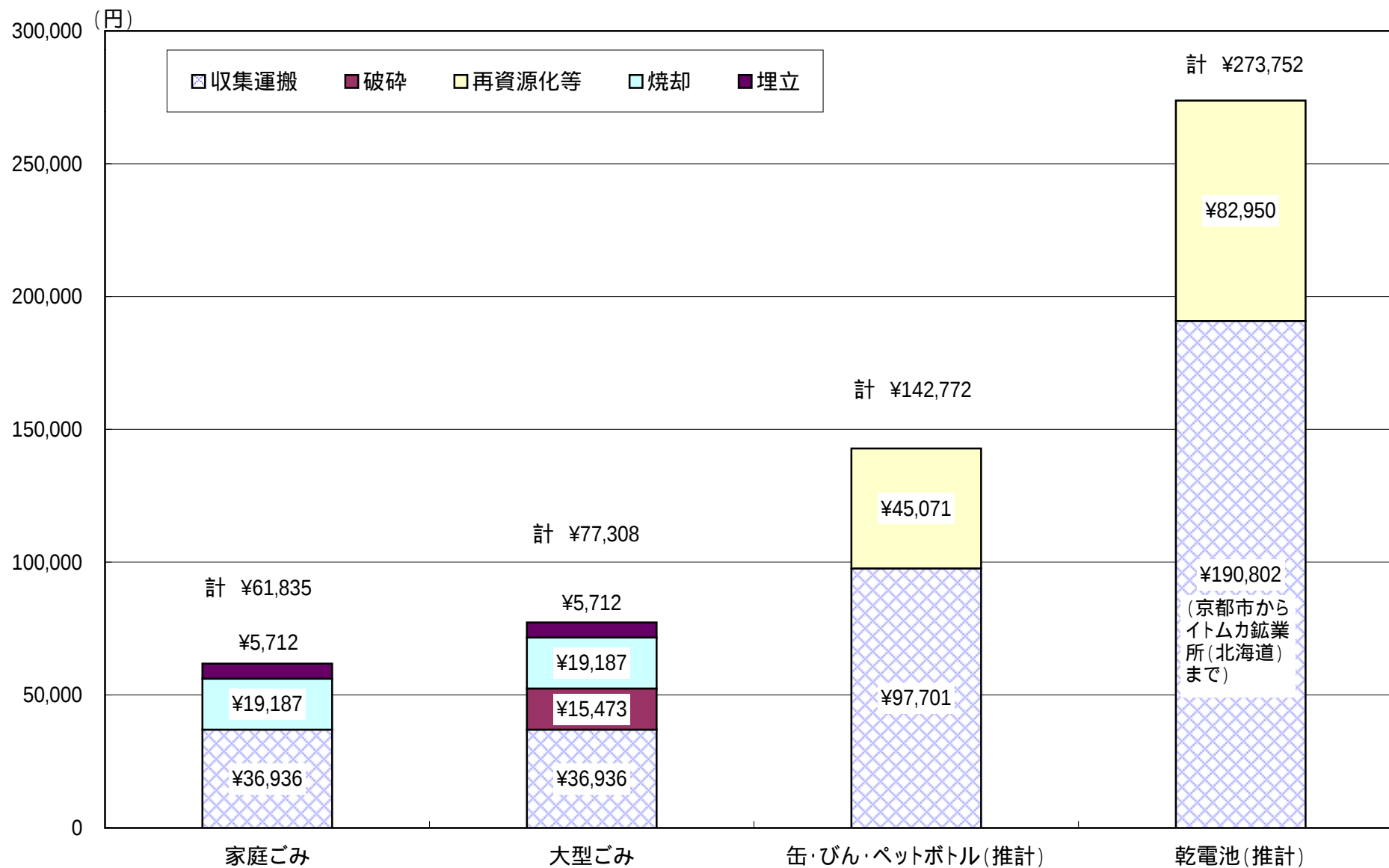
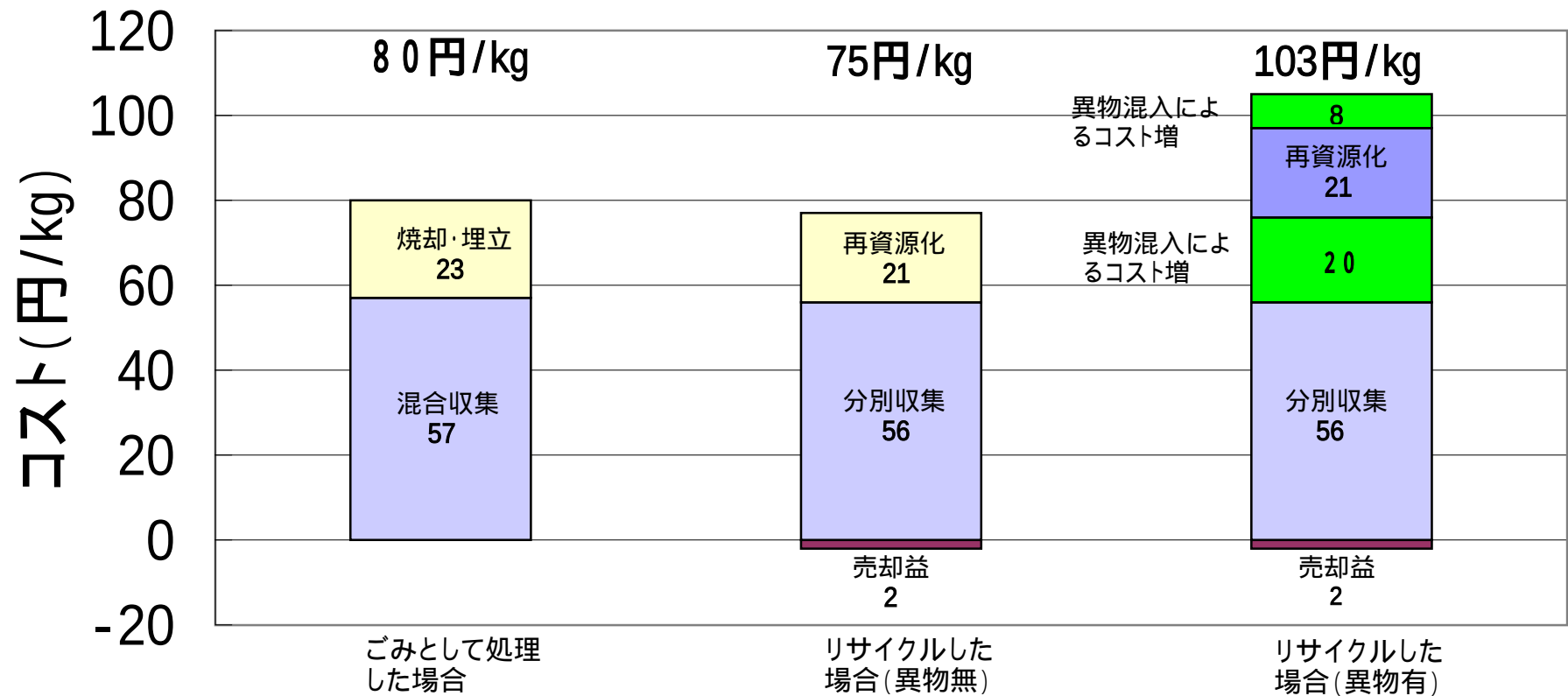


図 1 トンあたりの各種ごみ処理原価

スチール缶の処理コスト試算



スチール缶のような使い捨て容器は、リサイクルしてもごみとして処理しても、1キロあたり約75～103円のコストがかかっている。

現行基本計画の進捗状況と分析

ジャンル	概 況	課 題 等	達成度
ごみ減量・環境負荷低減へのインセンティブ付与	・ 4 事業所で I S O 1 4 0 0 1 取得 ・ K E S 創設 ・ 大型ごみ手数料及び持込ごみ手数料の改定 ・ グリーン購入推進	・ 本庁舎認証取得に向けた取組の推進 ・ エコライフ認定制度 ・ 家庭ごみ削減に関する顕彰制度 ・ 情報インセンティブ及び更なる経済的インセンティブ導入手法の検討	
発生抑制	・ 買い物袋持参の促進 ・ スーパー，酒類製造企業等による量り売りシステムの構築	・ 効果把握手法検討の必要 ・ 意識の希薄な層をどう取り込むか	
再使用	・ 不用品交換情報システム ・ 市役所前フリーマーケットの後援	・ 再使用の促進をさらに進めていく必要あり ・ インターネットオークション等，より手軽にアクセスできるシステムとの競合の問題	
再生利用	・ 秘密書類リサイクル ・ 廃食用油リサイクル ・ 業界と連携した古紙安定的回収維持 ・ 民間再資源化施設の誘致 ・ 各種リサイクル法への対応	・ バイオガスプラントの本格稼動，それに伴う厨芥類の分別収集確立 ・ その他プラ収集の全市拡大	
適正処理	・ 東北部クリーンセンター整備 ・ ダイオキシン対策工事	・ 有害廃棄物の適正処理 ・ 今後，ハード整備に対する投資をどう考えていくか	
まちの美化の推進	・ 京都美しいまちづくり推進本部設置 ・ まちの美化市民総行動 ・ 美化パスポート事業，ボランティア活動支援 ・ まちの美化推進住民協定締結促進	・ 参加者の固定化現象をどう打破するか	○
コミュニティ創出	・ 京エコロジーセンターの整備 ・ 京都市ごみ減量推進会議設立 ・ 地域ごみ減量推進会議設立支援	・ エコビジネスフォーラム立上げ ・ ごみ減の更なる規模拡大と取組の充実 ・ 学生の自主的活動の促進	
まちづくり	・ 廃食用油回収拠点の拡大	・ 資源循環が円滑に行われるシステムを有するまちづくりの推進	

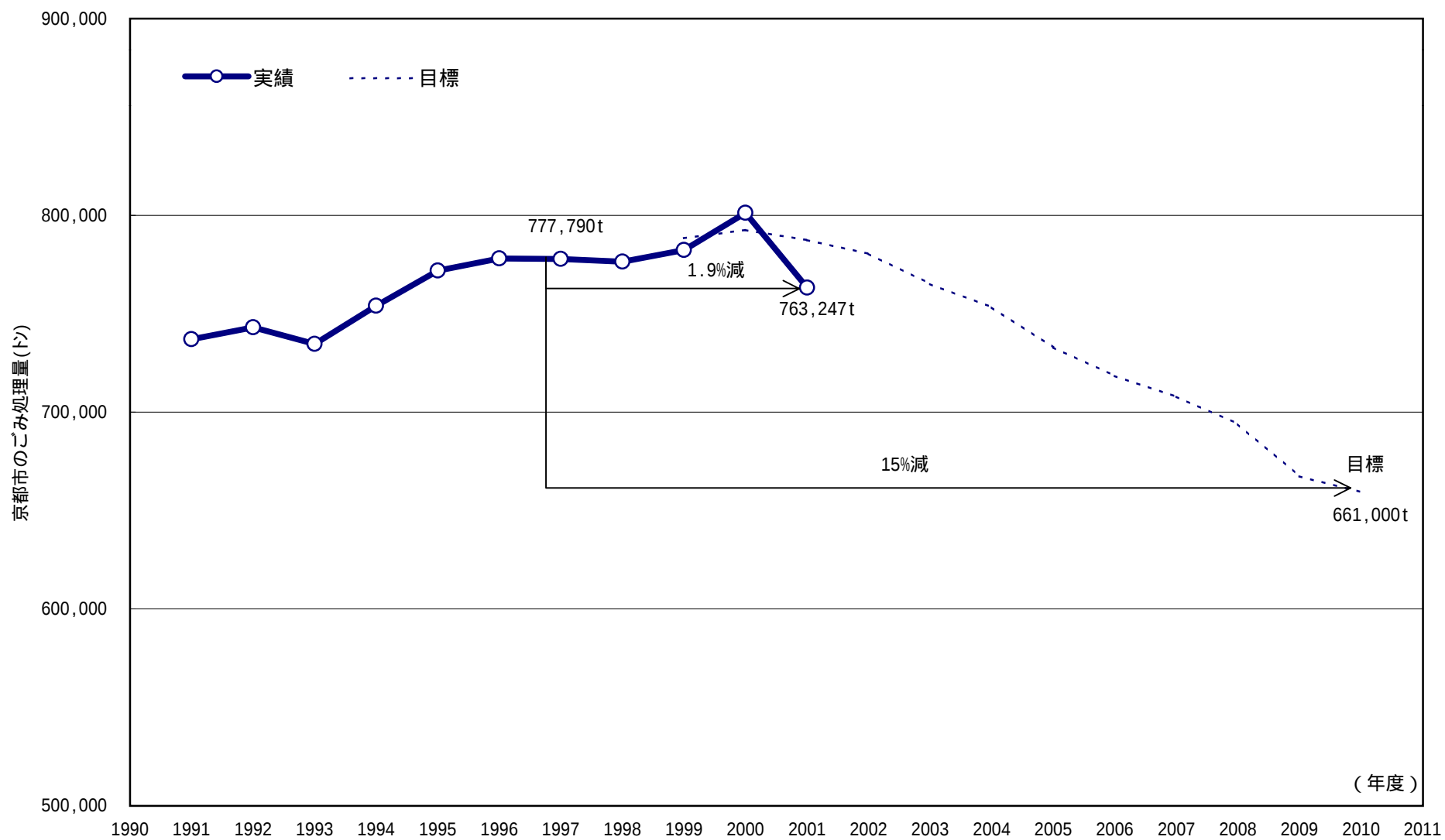


図 京都市のごみ処理量の推移と現行計画の目標値

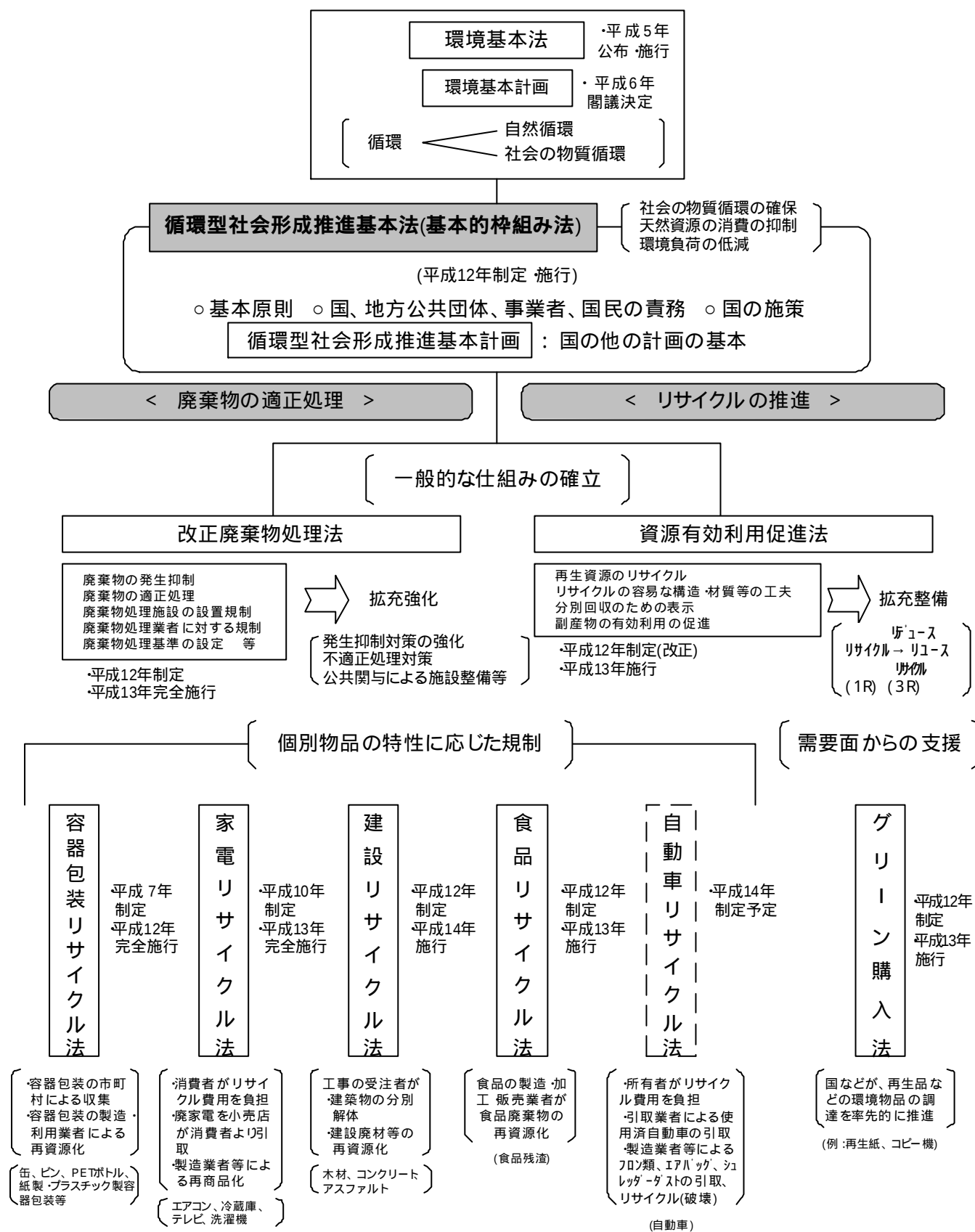


図 循環型社会形成推進のための法体系

国の法体系の概要と現行基本計画の乖離

【ポイント】

- 近年の法整備により、
 - ・ 廃棄物の処理責任は、自治体から排出者・生産者へ、処理方法は、焼却・埋立から発生抑制・再使用へと移りつつある。
 - ・ 廃棄物の定義・区分の変更や容器包装リサイクル法、家電リサイクル法についても見直す動きがある。
- 現行基本計画の目標値が、各リサイクル法で示す数値を満たさない場合があり、特に発生抑制面での取組強化が必要である。

➡ 現行基本計画を見直し、各種リサイクル法、今後策定予定の循環型社会形成推進基本計画等、その他上位計画との整合を図る必要がある。

法律	公布年月	法律の要旨	減量目標値等	
			現行基本計画	当該法律
循環型社会形成推進基本法	H12.6	(1)廃棄物の処理責任 自治体中心→排出者責任や生産者責任の明確化。 (2)廃棄物対策の優先順位 焼却・埋立中心→発生抑制、再使用、再生利用、熱回収、適正処理の順位を明記。	・自治体中心の処理 ・各処理方法が同列	・排出者、生産者責任 ・発生抑制、再使用優先
食品リサイクル法	H12.6	(1)食品廃棄物や建設廃棄物を排出する事業者の発生抑制や再生利用の責任が明記。 (2)地方公共団体が中心になって、その地域特性に応じてリサイクルが円滑に推進されるよう総合調整の役割を果たすことを明記。 (3)再生利用の目標値を設定。	平成 18 年度 3.1%減(対 12 年度比)	平成 18 年度 20%減(対 12 年度比)
建設リサイクル法	H12.5		平成 22 年度 廃木材:70%減 がれき類:40%減	平成 22 年度 コンクリート塊建設発生木材、 アスファルト コンクリート塊 各 95 %
改正廃棄物処理法	H12.6	(1)廃棄物の減量化や適正処理についての総合的で計画的な基本方針を定めることを新たに規定。 (2)産業廃棄物に対して公的関与による施設整備の促進。 (3)廃棄物の減量化の目標値を明記。 (4)法律に対する衆参両院の付帯決議 ・ 廃棄物の定義及び一般廃棄物・産業廃棄物の区分のあり方、使用済み製品に係る生産者の役割のあり方について根本的な見直しを含めて検討すること ・ 容器リサイクル法や家電リサイクル法について、その必要な見直しを行うこと	平成 22 年度 ・再生利用量:23% ・最終処分量約 8%減 (対 9 年度比)	平成 22 年度 ・排出量 : 5%減 (対 9 年度比) ・再生利用量:24% ・最終処分量:約 50%減 (対 9 年度比)
資源有効利用促進法	H12.6	(1)事業者の取組(従来の再生資源利用促進法からの転換) 1 R(リサイクル) → 3 R(リデュース、リユース、リサイクル) (2)特定業種や特定製品を規定して 3 R の促進を誘導。 現在、二次電池(ニッケル電池等)、事業用パソコンを指定。		

平成14年7月4日

第28回京都市廃棄物減量等推進審議会配布資料2

「基本計画見直しの方向性と審議会の体制案」

ごみ処理基本計画見直しの方向性（案）

京都市ごみ処理基本構想（平成10年5月）

●建都1200年の伝統に培われたものを大切にするという価値観の復権
 ■高度な技能を集約 → 西陣織等
 ■一品を大切にし、そのものの価値を高める → 清水焼等
 ■自然との調和の中に暮らす生活 → 京町屋等
 ●COP3開催都市として地球温暖化防止に資する取組

○将来社会像

「循環型社会経済システム」
 +
 「ポスト消費社会」

○将来ごみ処理システム像

◆発生抑制
 ◆収集・処理
 ◆埋立処分
 ごみの発生・排出抑制の推進
 環境負荷の最小化、資源・エネルギー回収の最大化
 最終処分量の最小化、埋立物の安定化・無害化

○市民・事業者・行政の役割

◆市民
 ◆事業者
 ◆行政
 循環型社会をかたちづくる主役
 自己処理責任を認識した自主的取組の推進
 市民・事業者の自主的取組の自立を支援

持続可能な社会の実現

天然資源
 採取量の抑制

環境負荷の低減

平成11年6月
 策定

⇒ 反映させるべき
 主なできごと

平成15年10月
 策定予定

- ◆循環基本法の制定
- ◆各種リサイクル法の制定
- ◆廃棄物の定義・区分の変更（検討中）
- ◆容リ法・家電リ法の見直し

循環を基調としたまちづくり

現行ごみ処理基本計画

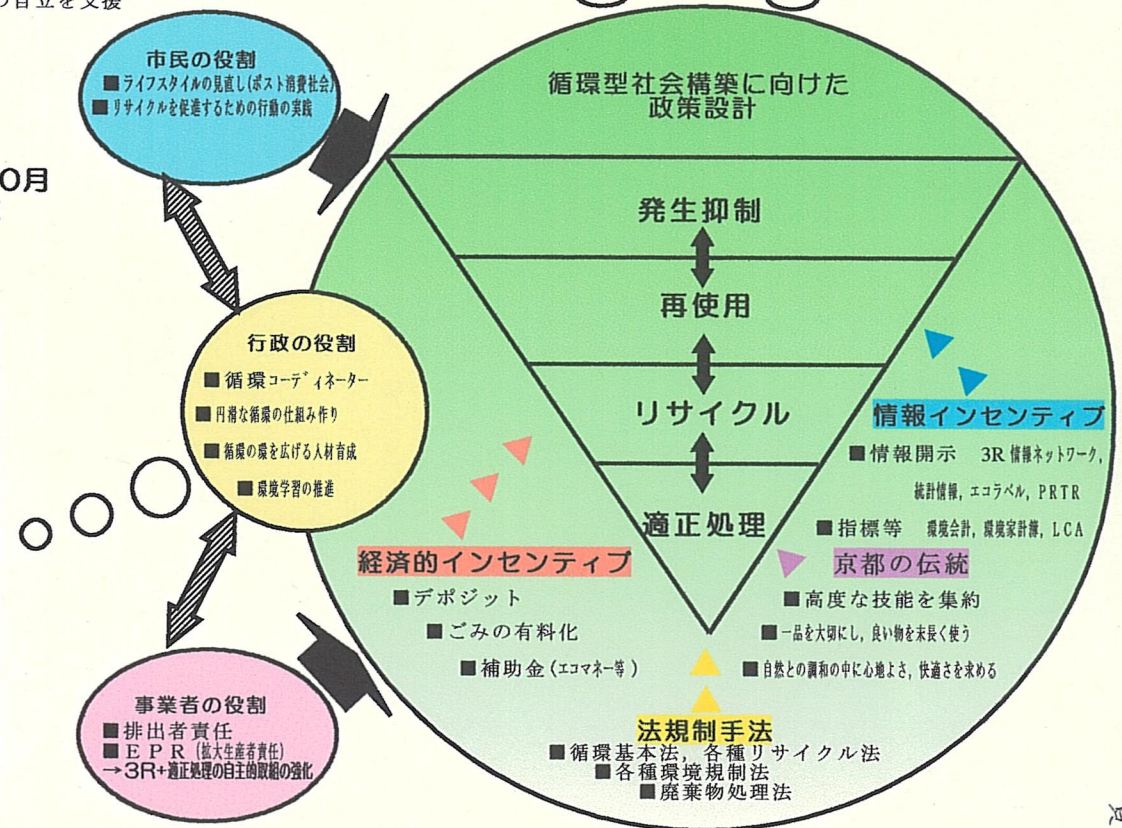
（見直しのポイント）

- ◆上流対策（発生抑制・再使用）の強化
- ◆市民・事業者・行政の役割の見直し
- ◆情報インセンティブと経済的インセンティブの検討
- ◆物質循環を視野においた廃棄物処理システムの構築
 戦略的環境アセスメント（SEA）の試行的導入
- ◆PDCAサイクルによる進捗管理システムの検討
- ◆不適正処理の防止（有害物質対策、不法投棄対策）

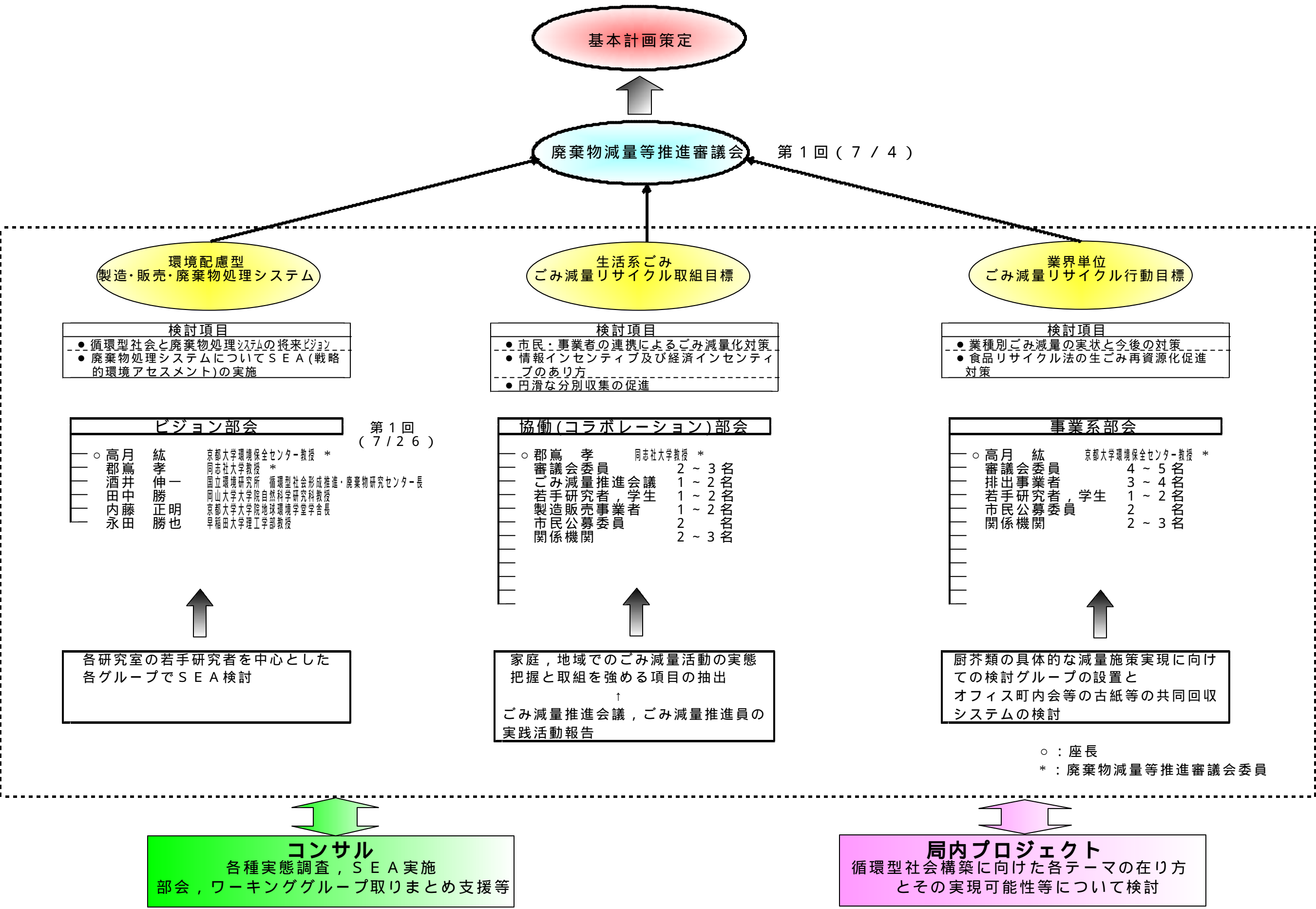
（目標年次）
 （2010年）

新ごみ処理基本計画

（2015年）



審議会の体制（案）



ビジョン部会（7/26）の内容(予定)

国等で活躍されている下記の有識者を委員としてお招きし、循環型社会構築に向けた廃棄物処理システムの将来ビジョンについてそれぞれの立場からご発言いただきます。

高月 紘 委員（京都大学環境保全センター教授）

循環型社会づくりと環境教育 ⇨ 消費者・市民への情報提供のあり方、教育システムとの連携

< 委員経歴 >

環境省独立行政法人評価委員会委員

文部科学省革新技术審査委員会環境対応分野委員

○ 郡 篤 孝 委員（同志社大学経済学部教授）

循環型社会づくりと情報的手法・経済的手法 ⇨ 政策手法のあり方（自主的取組、情報的・経済的インセンティブ）

< 委員経歴 >

経済産業省産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会

企画ワーキンググループ委員、循環ビジネスワーキンググループ委員

環境庁環境会計システムの確立に関する検討会委員

○ 酒井 伸一 委員（国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長）

循環型社会と有害物質管理 ⇨ 有害廃棄物への対応

< 委員経歴 >

環境省中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会委員

環境省 P O P s 対策検討会委員

○ 田中 勝 委員（岡山大学大学院自然科学研究科教授）

循環型社会づくりを巡る国等の動向（“ 経済財政諮問会議循環型経済社会に関する専門調査会のまとめ ” など）と廃棄物行政のあり方 ⇨ 費用・役割分担、行政の将来的役割

< 委員経歴 >

経済財政諮問会議循環型経済社会に関する専門調査会委員

環境省中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会委員

環境庁環境影響評価制度総合研究会委員

○ 内藤 正明 委員（京都大学大学院地球環境学堂学舎長）

有機系廃棄物のリサイクルと自立分散型社会 ⇨ 厨芥類リサイクルの方向、関係者間の連携のあり方

< 委員経歴 >

環境省・農林水産省有機性資源循環利用推進協議会座長

環境省環境影響評価総合研究会技術専門部会委員

京都市環境審議会計画部会部会長

○ 永田 勝也 委員（早稲田大学理工学部教授）

循環型社会づくりを巡る国等の動向（“ 経済産業省産業構造審議会の議論 ” など）と 3 R 機能のまちづくりへのビルトイン（エコタウン） ⇨ 上流対策のあり方、エコタウン

< 委員経歴 >

経済産業省産業構造審議会環境部会委員、廃棄物・リサイクル小委員会企画ワーキンググループ委員長

経済産業省二次電池リサイクルシステム検討会、環境省パソコン等リサイクル検討会合同検討会座長

環境省中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会委員

ＳＥＡ（戦略的環境アセスメント）について

（１）ＳＥＡとは

ＳＥＡ（戦略的環境アセスメント）とは、政策、計画、プログラム段階を対象とする環境アセスメントであり、事業に先立つ上位計画や政策などの段階で、環境への配慮を意思決定に統合（意思決定のグリーン化）するための仕組みである。

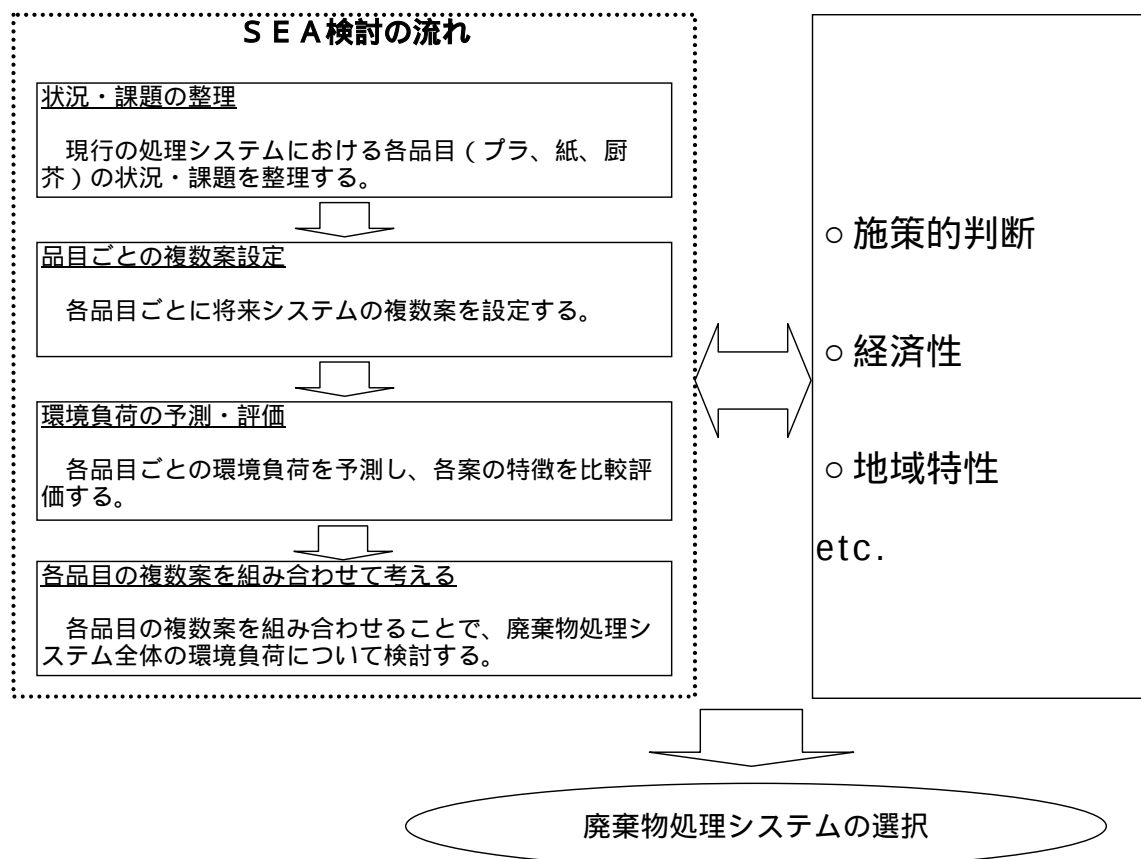
（２）ＳＥＡに期待される効果

廃棄物の処理方法（リサイクル、適正処分）によって、どのような環境負荷がどの程度生じるかを比較検討することにより、全体として環境負荷のより少ない廃棄物処理システムを選択することができる。

（３）ＳＥＡ検討の基本的な流れ

今年度は、プラスチック、紙、厨芥の処理システムといった個別の品目をターゲットに複数の案を設定し、環境面での影響を比較評価する。これらの結果を踏まえ、京都市全体の廃棄物処理システムへのＳＥＡ適用について検討する。

ＳＥＡで実施する環境面での評価に加え、施策的判断、経済性、地域特性などを踏まえ、総合的な判断を行って、計画を策定する。



廃棄物減量等推進審議会委員への市民公募の実施について

1 基本的考え方

【情 勢】

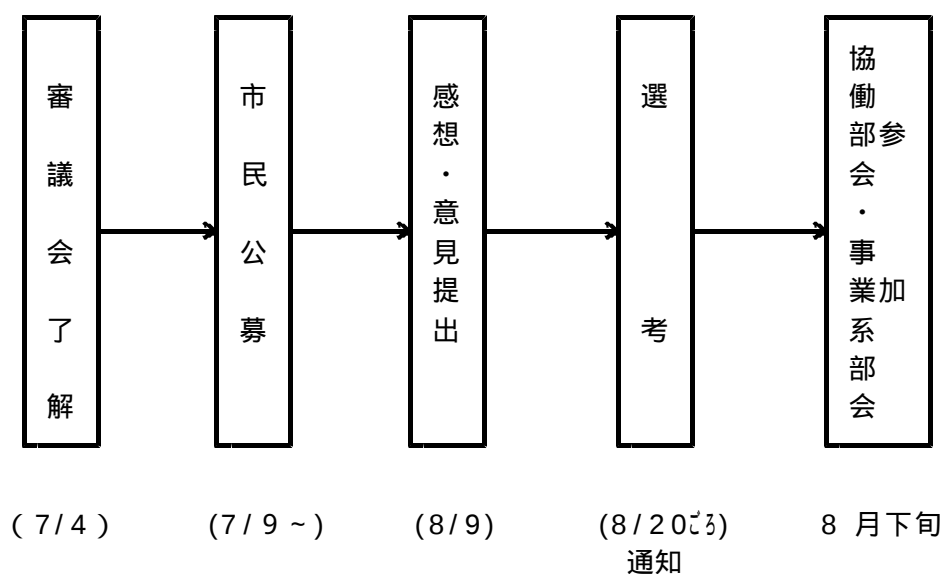
- ・ 審議会委員の公募についてはかねてより課題であったところ。
- ・ 高月会長，郡鳶会長代理より審議会委員に市民公募委員をとの意向あり。
- ・ 全国的に見ても、審議会への市民公募委員の参加の流れは定着。

【方向性】

- ・ 審議会委員の次回改選時期は15年6月であり，この時点での市民公募を考える。
- ・ 14年度は，基本計画見直しのため審議会の下部組織として3部会を設けることから，今年度は，その内の2部会（協働部会，事業系部会）の委員を市民公募することとする。

2 具体的な手続きフロー

公募委員決定までの流れは下記のとおりである。



3 その他

- ・ 京都市廃棄物減量等推進審議会事務局からのお知らせ（案） 資料3 - 2 - 2
- ・ 公募は，広報発表及びインターネットの循環型社会推進課のホームページで行う。
- ・ 「募集のお知らせ」は，環境局循環型社会推進課，市政案内所，情報公開コーナー及び各区役所・支所の地域振興課窓口にて配布するほか，インターネット循環型社会推進課ホームページから応募ができるものとする。
- ・ 「募集のお知らせ」には，7/26のビジョン部会の傍聴を可能な限りしていただくよう記載する。

京都市廃棄物減量等推進審議会事務局からのお知らせ

～ 審議会部会委員の公募及び 第1回審議会ビジョン部会の開催について～

平成14年7月 京都市環境局環境企画部循環型社会推進課

1. 審議会部会委員を公募します！

京都市では、ごみ減量のための具体的な推進方策等を審議していただくため、京都市廃棄物減量等推進審議会を設置しています。

今年度から、「新京都市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画～京（みやこ）・めぐるプラン」の見直しに向けて、京都市の将来的な廃棄物処理システムのあり方について学識者の方にご検討いただく「ビジョン部会」、市民・事業者の連携による生活系ごみの減量対策をご検討いただく「協働部会」、事業系ごみの減量対策をご検討いただく「事業系部会」を、審議会の下に設置することとしました。

今回、ごみに関する具体的な問題について、市民の方々から広くご意見、ご提案をいただくため、「協働部会」と「事業系部会」にて、部会委員を公募させていただくことにしました。

多数の方のご応募をお待ちしています。

なお、応募ご希望の方は、できる限り、後述のビジョン部会の傍聴にもご参加くださいますようお願いいたします。

応募締切：平成14年8月9日（金）まで

（郵送の場合は当日消印、FAX及びメールの場合は
当日送信日時記録有効）

お問合せ・応募先：

〒604-8571（住所不要）

京都市環境局環境企画部循環型社会推進課

担当：井 上

電話 075-222-4091

FAX 075-213-0453

ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/kankyo/recycle/>

1 目的

京都市廃棄物減量等推進審議会(以下「審議会」)の下に設置する協働部会及び事業系部会において、両部会委員の一部を公募することにより、市民の方々のご意見及びご提案等を広く求め、今後の廃棄物行政に反映させることを目的としています。

2 委員数及び任期

公募による部会委員の数は、各部会2名ずつです。

公募委員の任期は、委嘱の日から、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の見直しに関する答申が行われる日(平成15年9月頃予定)までです。

3 応募資格

応募日現在、次の条件をすべて満たしている方とします。

市内にお住まいの方(市内に住民登録又は外国人登録をしている方。国籍は問いませんが、日本語を理解できる方に限ります。)

年齢20歳以上の方。

国、地方公共団体の議員又は常勤の公務員でない方。

おおむね2ヶ月に1回程度、平日の日中に開催される各部会に出席できる方。

4 応募方法

次の方法のいずれかによってご応募ください。

郵送 F A X メール(ホームページからお送りください。)

5 応募期間

平成14年7月10日(水)から平成14年8月9日(金)までに、応募用紙と意見書を併せてご提出ください。郵送の場合は当日消印、F A Xの及びメールの場合は当日送信日時記録有効です。

6 選考

委員の選考は意見書をもとに行い、その結果は、意見書を提出された方全員にお知らせします。なお、応募書類は返却しませんので、ご了承ください。

7 委員の仕事

おおむね2ヶ月に1回程度、平日の日中に開催される審議会協働部会又は審議会事業系部会に出席していただきます。

8 報酬

会議出席ごとに、市長が別に定める額をお支払いします。

京都市廃棄物減量等推進審議会公募委員 応募用紙

(提出締切：平成14年8月9日(金))

ふりがな			
氏 名			
生年月日	年 月 日(歳)	性 別	男 ・ 女
住所・電話番号	(〒 -) 京都市 区 電話 () -		
職 業	勤務地連絡先 () -		
参加を希望 する部会 (いずれか に○を)	・ 協働部会 (市民・事業者の連携による生活系ごみ減量対策) ・ 事業系部会 (事業系ごみ減量対策)		
応 募 理 由			

意見書

ふりがな	
氏 名	
京都市の廃棄物処理について考えておられることや、これから進めるべき取組についてのアイデア・ご意見等を自由にお書きください。 <u>(提出締切：平成14年8月9日(金))</u>	

2. 審議会ビジョン部会を開催します！

前述のように，京都市の将来的な廃棄物処理システムのあり方について検討していただくために審議会の下に設置する「ビジョン部会」を，下記のとおり開催します。

当審議会及び部会は，すべて公開となっており，ビジョン部会にも傍聴席を設けます。皆様のご来場をお待ちしています。

なお，会場の広さ等の関係上，傍聴ご希望の方多数の場合には抽選とさせていただきます。ご了承ください。

日時：平成14年7月26日（金）

午後1時30分～午後4時

場所：京都ロイヤルホテル（下図）2階 青雲の間

電話 075 - 223 - 1234

お問合せ：京都市環境局環境企画部循環型社会推進課

担当：井 上

電話 075 - 222 - 4091



ビジョン部会では、国等で活躍されている下記の有識者の方を部会委員としてお招きし、循環型社会構築に向けた廃棄物処理システムの将来ビジョンについて、それぞれの立場からご発言いただく予定です。

高月 紘 委員（京都大学環境保全センター教授）

循環型社会づくりと環境教育 ⇨ 消費者・市民への情報提供のあり方、教育システムとの連携

< 委員経歴 >

環境省独立行政法人評価委員会委員

文部科学省革新技术審査委員会環境対応分野委員

○ 郡嶌 孝 委員（同志社大学経済学部教授）

循環型社会づくりと情報的手法・経済的手法 ⇨ 政策手法のあり方（自主的取組、情報の・経済的インセンティブ）

< 委員経歴 >

経済産業省産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会

企画ワーキンググループ委員、循環ビジネスワーキンググループ委員

環境庁環境会計システムの確立に関する検討会委員

○ 酒井 伸一 委員（国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長）

循環型社会と有害物質管理 ⇨ 有害廃棄物への対応

< 委員経歴 >

環境省中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会委員

環境省 P O P s 対策検討会委員

○ 田中 勝 委員（岡山大学大学院自然科学研究科教授）

循環型社会づくりを巡る国等の動向（“ 経済財政諮問会議循環型経済社会に関する専門調査会のまとめ ” など）と廃棄物行政のあり方 ⇨ 費用・役割分担、行政の将来的役割

< 委員経歴 >

経済財政諮問会議循環型経済社会に関する専門調査会委員

環境省中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会委員

環境庁環境影響評価制度総合研究会委員

○ 内藤 正明 委員（京都大学大学院地球環境学堂学舎長）

有機系廃棄物のリサイクルと自立分散型社会 ⇨ 厨芥類リサイクルの方向、関係者間の連携のあり方

< 委員経歴 >

環境省・農林水産省有機性資源循環利用推進協議会座長

環境省環境影響評価総合研究会技術専門部会委員

京都市環境審議会計画部会部会長

○ 永田 勝也 委員（早稲田大学理工学部教授）

循環型社会づくりを巡る国等の動向（“ 経済産業省産業構造審議会の議論 ” など）と 3 R 機能のまちづくりへのビルトイン（エコタウン）⇨ 上流対策のあり方、エコタウン

< 委員経歴 >

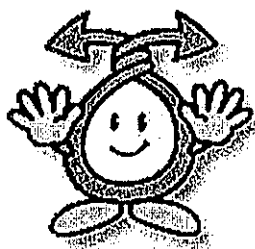
経済産業省産業構造審議会環境部会委員、

同廃棄物・リサイクル小委員会企画ワーキンググループ委員長

経済産業省二次電池リサイクルシステム検討会、環境省パソコン等リサイクル検討会合同検討会座長

環境省中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会委員

京都市環境局循環型社会推進課



更新情報・ニュース

- このホームページの構成を改訂し、各種の情報を追加しました。(2002/7/5)
- 「ごみ処理基本計画」の改定に当たり、京都市廃棄物減量等推進審議会の部会委員を公募しています。(2002/7/5)

市民のみなさまへ
リユース・リサイクル情報コーナー

- 不要品リサイクル情報案内
- びん・缶・PETボトル
「資源ごみ」として分別して出してください。
 - ごみの出し方はこちらで簡単にまとめてご紹介しています。
- 家電
 - 家電リサイクル法について(準備中)
 - 協力店リスト
- 紙パック(準備中)
- 筒型乾電池(準備中)
- 二次電池 回収協力店リスト
- 廃食用油
 - 回収拠点リスト(準備中)
 - 廃食用油をバイオディーゼル燃料に

京都市のごみ・リサイクルと
行政の情報公開コーナー

- 京都市のごみと処理費用の実態(統計データ)
- 循環型社会推進課ではこんな事業を行っています。

ごみとリサイクルの話のコーナー

- 京都市ごみ減量推進会議(準備中)
- 「ごみを減らすこと」と「リサイクル」について「考え、学び、体験できる」展示コーナー「めぐる君学ぶハウス」のご案内

廃棄物減量等推進審議会のコーナー

- 「ごみ処理基本計画」を改定します
- 改定の概要と市民公募について
 - 審議会の開催予定・議事次第・会議資料

ご意見・ご感想

このホームページに関するご質問・ご意見・ご感想をお寄せ下さい。
webadmin@kyoto-gomi.comまで

所在地 京都市役所 西庁舎2階
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
バス停:市バス京都市役所前 下車すぐ
地下鉄:東西線京都市役所前駅 下車すぐ

電話番号 075-222-4091(直通)

ファクシミリ番号 075-213-0453

今後のスケジュール（案）

【 審 議 会 】 【 ビ ジ ョ ン 部 会 】 【 コ ラ ボ レ ー シ ョ ン 部 会 】 【 事 業 系 部 会 】

